

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構
------	-----	------	-------------

A-1	関西学院の理念	変更の有無		
	<p>【ミッションステートメント】 関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高深さをもって社会を変革することにより、スクール・モットー “Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とする。</p> <p>【スクール・モットー】 関西学院のスクール・モットー“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるために自らを鍛える個々の主体のありかたを示している。</p> <p>【めざす人間像】「Mastery for Service”を体現する世界市民」 関西学院がめざす人間像は、世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志をもって行動力を発揮する人である。</p> <p> 《他者への思いやり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己を基点とした周囲への温かい配慮（自己愛から他者愛、人間関係と他者への思いの育成） ・ 自己の果たせる役割の自覚（持てる力・足らざる力の認識、他者への積極姿勢と行動） <p> 《大きな志》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯課題の設定（家庭、地域、先人からの学び、いかに生きるかの自問） ・ 目標の達成を支える強い意志（夢・望みと強い思いを基点とする学びの意欲と強い実行意欲） <p> 《高い識見と倫理観》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識と専門的学識（共通教養教育、学士力） ・ 学びと実践を結び意欲（「生涯課題」の追究） ・ 知的基盤に立つ倫理観（専門教養教育、キリスト教主義に基づく教育、周囲（家族、友人、地域社会、世界）との交流） ・ 問題発見と解決への挑戦（問題発見・解決のための学習と実践） <p> 《確立した自己》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己＝オンリーワンの認識（自尊心と謙虚さ、固有の信念、人生観） ・ 自己と社会を見る目の育成（人間力の育成と集団の中の自己位置付け、自主性と自立性） <p> 《行動力と存在感》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会参画への意識とそれを支える自己研鑽（コミュニケーション能力の涵養） ・ 他者から信頼される高深さ（状況と役割の把握、責任をとらせた行動力） <p> 《社会変革の気概》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会への視点と認識（教養、歴史認識、現状への批判と改革志向） ・ 自己の能力に対する信頼（専門的学識の深化と実践力の涵養） <p> 《世界への視野》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自文化に対する素養とそれに基づく世界観の醸成（教養、歴史認識、異文化への理解） ・ 人類に普遍共通する問題の認識と世界的視野（世界を視野におさめた普遍的価値（人権、自由、平和）への認識と問題解決への意欲・思考力、語学力） ・ 人権意識の涵養（自己認識と他者への波及） <p>【めざす大学像】「<垣根なき学びと探究の共同体（ラーニングコミュニティ）>の実現」 関西学院大学は、キリスト教主義に基づく「垣根なき学びと探究の共同体」をめざし、全人的な教育と創造的な研究により、有能にして心温かい世界市民を社会に送り出すことを使命としている。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p>		
A-2	関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（学則上）	変更の有無	関西学院大学の目的（Webサイト上）	変更の有無
	<p>【関西学院大学】（関西学院大学学則第1条） 学校教育法及び教育基本法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶することを目的とする。</p> <p>【関西学院大学大学院】（関西学院大学大学院学則第1条） 本大学院は学部における一般的及び専門的教養の基礎の上に、専門の学科を教授研究し、深広な学識と研究能力とともに進んで研究指導能力を養い、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p> 《修士課程》</p> <p> 広い視野に立って、精深な学識を授け、専門分野における研究能力、または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の効力を養うことを目的とする。</p> <p> 《博士課程（前期課程・後期課程）》</p> <p> 専門分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p> <p> 《専門職大学院》</p> <p> 専ら高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。</p> <p>【関西学院大学専門職大学院】（関西学院大学専門職大学院学則第2条） 学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p>	<p>「関西学院大学の理念・目的」 関西学院大学はその理念とするキリスト教主義に基づき、教育基本法および学校教育法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、人格を陶冶することを目的とする。 本学初代学長（第4代院長）C. J. L. ベーツが提唱したスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”は、関西学院の建学の精神を簡潔に表現するものであり、「社会貢献のためにこそ実力を身につけよ」と解されている。本学は、知性を、そして自らが持つすべての豊かさを、隣人のために用いることを強調するとともに、創立当初から培われてきた国際性と社会貢献への使命感を身につけた世界市民の育成を重視する。 本学は、教育においては、全人的教養および専門的知識・技能を修得させるとともに、広く創造力、課題発見能力、課題解決能力そして実行力を培うことをめざす。また、研究においては、本学として特色ある基礎研究を強化しつつ、応用研究および先端的研究を発展充実させるとともに、研究成果を社会に還元して、社会貢献することをめざす。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p>

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構

「Mastery for Service」を体現する世界市民」に向け、卒業時に学部、研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像	変更の有無
<p>“Mastery for Service”を体現する世界市民をめざし、キリスト教主義教育をとおして、世界への視野、幅広い知識、深い専門性、豊かな人間性と自らを律する強さと主体性を身につけ、多様性への理解を深め、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くために、困難を乗り越えて持続的に貢献しつづける力を持った学生。</p> <p>【関西学院大学(学士課程)】<<卒業時に学部の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力>></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らを律する強さと主体性を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 ・ 世界への視野をもって、社会への深い関心を抱き、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の社会、文化、人間、自然、社会についての幅広い知識と、多様性を理解する多角的な視点を身につけている。 ・ 専攻分野の知識を体系的・構造的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報収集力、データ分析力、論理的思考力、表現力などの技能を身につけている。 ・ 日本語と特定の外国語をもちいて、他者と円滑にコミュニケーションできる力を身につけている。 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における課題に取り組むための課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。 <p>【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】<<修了時に研究科(博士課程前期課程)の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力>> 幅広い視野、精深な学識、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】<<修了時に研究科(博士課程後期課程)の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力>> 専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】<<修了時に研究科(専門職学位課程)の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力>> 専ら高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力</p>	<p>□有り ☑無し</p>
学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】 関西学院大学は、キリスト教主義に基づく垣根なき学びと探求の共同体(ラーニングコミュニティ)として、全人的な教育と創造的な研究により、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成を使命としている。その実現に向けて、「学部の区別なく共通して卒業時に身に付けておくべき知識・能力」を定めており、これを各学部の教育課程に通底するものとして位置付ける。加えて、学位授与にあたっては、各学部が定める期間在学し、必要な単位を修得し、卒業することを要件とする。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】 各研究科が定める期間在学し、所定の授業科目及び単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で、各研究科の目的に応じ、幅広い視野、精深な学識、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要能力を修め、専門外国語学力の認定、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することを要件とする。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】 各研究科が定める期間在学し、所定の授業科目及び単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で、各研究科の目的に応じ、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修め、専門外国語学力の認定、博士論文の審査及び最終試験に合格することを要件とする。</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 各研究科が定める期間在学し、所定の授業科目及び単位数を修得し、各研究科の目的に応じ、専ら高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修めることを要件とする。なお、経営戦略研究科会計専門職専攻に所属する一部の学生については、必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格することも要件とする。</p>	<p>□有り ☑無し</p>

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構
------	-----	------	-------------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「卒業時に学部・研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」「学位授与の方針」に関する、 適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄	
【確認1】	「関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 関西学院の理念」に沿い、本学がめざす方向性を適切に表現しているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「関西学院大学の目的(Web サイト上)」は、A-2「関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「学部・研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」と「学位授与の方針」は、A-2「関西学院大学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「関西学院大学の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与の方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与の方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	学士課程	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「学部・研究科の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力と学生像」、「学位授与の方針」は周知・公表されているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構
------	-----	------	-------------

【A-1 および A-2(DP 以外)】 検証担当部局:学長室

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室	
	検証手続き(どこで)	学長室会	
	決定・判断時期(いつ)	毎年12月	
	検証エビデンス	学長室会議事録	
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。	
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

【A-2(DP(学士課程))】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室	
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会	
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月	
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録	
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。	
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す) <input type="checkbox"/> その他()	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構
------	-----	------	-------------

【A-2(DP(博士課程前期課程)) 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
		<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)
		<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)
	<input type="checkbox"/> その他 ()	
判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

【A-2(DP(博士課程後期課程)) 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
		<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)
		<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)
	<input type="checkbox"/> その他 ()	
判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構
------	-----	------	-------------

【A-2(DP(専門職学位課程)) 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証 体制を明確に しているか	責任主体・組織(だれが)	学長室						
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会						
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月						
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録						
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)							
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。						
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>その他 ()</td> </tr> </table>	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)	→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)	→	<input type="checkbox"/> その他 ()
	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)						
→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)							
→	<input type="checkbox"/> その他 ()							
判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き							
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()							

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
------	-----	------	-----

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 全ての学生に対する質の保証	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 学生・教職員がともに学び合う気風を育て、キリスト教主義教育を通して関西学院大学の卒業生にふさわしい、「世界市民」として求められる高い資質・能力(関心・意欲・態度、知識・理解、技能・表現、思考・判断)をすべての学生に保証する。	
目標2	(タイトル) 研究支援の充実と成果の社会還元及び社会連携の強化	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 特色ある基礎研究を強化し、応用研究及び先端的研究を発展充実させ、その研究成果を国内外に発信するとともに社会に還元し、地域社会、国際社会、産業界・官界等との連携を強化する。	
目標3	(タイトル) キャンパスのグローバル化の推進	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 世界各国からの優秀な留学生と本学の学生・教職員がともに集う、多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する。	
目標4	(タイトル) 総合的な学生支援の実現	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 一人ひとりの学生が誇れる何かを得ることができ、世界に通用する人材育成を実現すべく学生支援を強化する。	
目標5	(タイトル) 高大接続の推進	□有り ☑無し
	(狙い・内容) スーパーグローバル大学としての取組みの一環として、高等学校教育から大学教育への円滑な接続を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の学力3要素を的確に把握できる大学入試改革を推進する。	
目標6	(タイトル) 大学院のあり方	☑有り □無し
	(狙い・内容) 世界的な研究拠点のため、大学院の充実を図り、若手研究者の育成に努める。	

		変更の有無
アシスト 目標	(位置づけ)	□有り ☑無し
	教育研究目標の達成のため、機構・センターがそれぞれの役割に基づいて策定した目標。	

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構

A-4	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
	<p>【関西学院大学(学士課程)】 全学的な教育課程の編成・実施方針は「ダブルチャレンジ制度」として公表されている。この制度は、“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成するために、全学生が自身の所属学部や主専攻の学び(コースワークとリサーチワーク)に加えて、異なるものとの出会い(副専攻、社会での実践、留学等の国際交流)を体験することを通して、主体性、タフネス、多様性への理解を涵養するものである。 主専攻のカリキュラムには大きく総合教育科目(キリスト教科目、言語教育科目、教養教育科目等)と専門教育科目があり、順次的、体系的に履修できるよう配慮している。これらを、理論と実務との組み合わせを重視し、多様な授業形態によって実現する。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】 本大学院の教育課程では、博士課程前期課程の教育目的を達成するために、学位授与の方針(DP)に基づいて、各研究科における専修科目(必修及び選択必修科目)、学位論文の作成等に対する指導及び大学院共通科目を、コースワークとリサーチワークが体系的に行えるよう編成する。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】 本大学院の教育課程では、博士課程後期課程の教育目的を達成するために、学位授与の方針(DP)に基づいて、各研究科における専修科目(必修及び選択必修科目)、学位論文の作成等に対する指導及び大学院共通科目を、コースワークとリサーチワークが体系的に行えるよう編成する。</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 本大学院の教育課程では、専門職学位課程の教育目的を達成するために、学位授与の方針(DP)に基づいて、各研究科における授業科目及び大学院共通科目を、コースワークが体系的に行えるよう編成する。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄	
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構
------	-----	------	-------------

【学士課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室						
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会						
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月						
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録						
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)						
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。						
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>その他 ()</td> </tr> </table>	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)	→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)	→	<input type="checkbox"/> その他 ()
	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)						
→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)							
→	<input type="checkbox"/> その他 ()							
判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き							
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()							

【博士課程前期課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室						
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会						
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月						
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録						
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)						
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。						
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>その他 ()</td> </tr> </table>	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)	→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)	→	<input type="checkbox"/> その他 ()
	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)						
→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)							
→	<input type="checkbox"/> その他 ()							
判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き							
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()							

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構
------	-----	------	-------------

【博士課程後期課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室						
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会						
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月						
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録						
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)						
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。						
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>その他 ()</td> </tr> </table>	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)	→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)	→	<input type="checkbox"/> その他 ()
	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)						
→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)							
→	<input type="checkbox"/> その他 ()							
判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き							
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()							

【専門職学位課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室						
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会						
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月						
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録						
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)						
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。						
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input checked="" type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">→</td> <td><input type="checkbox"/>その他 ()</td> </tr> </table>	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)	→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)	→	<input type="checkbox"/> その他 ()
	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)						
→	<input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す)							
→	<input type="checkbox"/> その他 ()							
判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き							
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()							

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦を続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多角的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>神学部アドミッション・ポリシー</p> <p>神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育成することを目標としています。</p> <p>くわえて高等学校までの基礎的な学習を土台として、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。</p> <p>そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験によって高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p> <p>神学部に入学を望む者に期待することは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている 2. キリスト教について幅広く関心をもっている 3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある 4. 日本語、英語について一定水準の能力がある 5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある <p>キリスト教伝道者コースに入学を許可される者は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている 7. バプテスマ(洗礼)を受けた者である 8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある 9. 聖書、キリスト教について調べることができる <p>文学部アドミッション・ポリシー</p> <p>文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広く客観的な視野と、先入観や画一的なものの見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいける資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。</p> <p>社会学部アドミッション・ポリシー</p> <p>社会学部は、学士課程教育で培っていかうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いています。</p> <p>[態度・関心]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基づいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。 ② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心をもち、社会学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。 <p>[知識・思考]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高等学校で学ぶ基本的な科目について、優れた学力水準にあること。社会学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史(日本史・世界史)、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。 ② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語(国語)、数学についても、十分な能力を身につけていること。 <p>[技能・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験をもっていること。 ② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語(あるいは他の外国語)の基礎的な運用能力を身につけていること。 <p>入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接等を探り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素(「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」)は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。</p>	<p>変更の有無</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し</p>

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

法学部アドミッション・ポリシー

法学部は、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、(1)科学的な思考方法の習得、(2)広範な知識と社会的視野の獲得、(3)正しい価値観と豊かな人間性の形成、(4)人権感覚の陶冶、(5)国際的・地球的な視野の確保という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。法学部は、こうした目的と目標に十分に応えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々な生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。

入学試験ではこうした方針に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

経済学部アドミッション・ポリシー

わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいうまでもありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はさきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。

商学部アドミッション・ポリシー

～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～

本学部の教育理念・目的は、“Mastery for Service(奉仕のための練達)”というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

人間福祉学部アドミッション・ポリシー

人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に教理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があるか、身体(スポーツ・健康)に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

国際学部アドミッション・ポリシー

国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解・国際理解のための能力)と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成します。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようになることです。

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れます。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
2. 主体的な関心に応じて、みずから問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
3. グローバル化する社会の中で他者の想いや異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

教育学部アドミッション・ポリシー

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場や広く社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践者を目指す者を受け入れたいと考えています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において評価しています。

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

総合政策学部アドミッション・ポリシー

本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあひ学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探索することが期待されます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

理工学部アドミッション・ポリシー

自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、次のような学生を求めます。

<理工学部が求める学生像>

- ・自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生
- ・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
- ・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
- ・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜入学試験

一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。

一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。

全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」に記述式を探り入れ必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。

理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語(学部個別日程のみ記述式含む)」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験関連独自方式日程は、英語・数学型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関心を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

② 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関心興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部との面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

③ インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIB PREDICTED SCORE が出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

④ グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身に付けることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。筆記審査は英語、数学、理科(物理・化学・生物のうち1科目選択)により行います。これらの教科・科目における基本的な学力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果とあわせて第一次審査を行います。面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問や、学ぶ意欲、人間性を評価し、一次審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

① 院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神のもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神のもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的かつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日：2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

④ 協定校推薦入学

1)キリスト教学学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、个性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2)グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、个性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3)グローバル+キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、そして高等学校のキリスト教主義教育により学び、个性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

神学部

関西学院大学神学部において勉学することに強い意欲をもつ、成績優秀な生徒を推薦によって求め、総合大学の特色を生かし、豊かな人格を培い、幅広い一般諸学の教養と深い神学的素養とを身に付けさせ、社会に仕える者を育成することを目的とします。審査に際しては、志願提出書類と面接を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

文学部

関西学院大学文学部において勉学することに強い意欲をもつ個性ゆたかな生徒を、推薦によって入学を許可することによって入学後の修学への準備期間を確保し、入学後に文学部においてその才能をさらに伸ばすとともに、本学部独自の学風を振興し、広く社会に寄与し得る人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

社会学部

関西学院大学社会学部において勉学することに強い意欲をもつ成績優秀な生徒を、広く国内外から推薦によって求め、建学の精神に基づき将来性ある人材を育成することを目的とします。審査では、志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部で法律学・政治学を学ぶことに強い意欲をもち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、関西学院建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

経済学部

関西学院大学経済学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな活力ある生徒を推薦入学させることによって、学生の多様化をはかり、学部諸活動の一層の活性化を推進して、本学建学の精神に基づき有能な人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

商学部

関西学院大学商学部において勉学することに強い意欲をもつ学力優秀で個性ゆたかな生徒を推薦によって求め、本学建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備え、真に創造的な能力を有し、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

人間福祉学部

関西学院大学人間福祉学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性豊かな生徒を求め、本学の建学の精神に基づき、将来性ある人物を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

国際学部

関西学院大学国際学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな生徒を推薦入学させることによって、本学建学の精神および本学部の教育・研究上の理念である「国際性の涵養」に基づく世界市民と呼ぶにふさわしい国際性と人間性を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どものかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者のかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、入学者を選考します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を提出された書類および面接によって選考します。

総合政策学部

関西学院大学総合政策学部で学ぶことに強い意欲を持ち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、キリスト教主義に基づく教育という関西学院建学の精神を基盤として、社会に対する深い洞察力を備え、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とする。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

理工学部

関西学院大学理工学部への入学を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では出願時提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑥ 指定校推薦編入学

人間福祉学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

教育学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

総合政策学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

理工学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール・教育連携校対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクール課題研究等を通じて高められた科学的な能力と強い勉強意欲を有する生徒を本推薦入学試験によって求め、その能力を関西学院大学理工学部の教育によりさらに向上させ、将来国際的に活躍しうる科学技術系人材に育成することを目的としスーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において面接を中心にしながら工夫をこらした審査を行い、課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

3)理工学部 公募制推薦入学試験

生命科学科・生命医化学科

生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。

審査においては、生命科学に関する小論文審査を行い、本学生命科学科・生命医化学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、生命科学科・生命医化学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

人間システム工学科

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるユビキタス・ロボティクス技術に必要な学問を指向します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しい人と人工物のインタラクション、および人工物を介した人と人のインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもとに本公募制推薦入学試験では従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を募ります。コンテンツ制作(映像・音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、フリーウェアやインタラクティブアート等を幅広く対象とする)やロボット等のハードウェアを伴うシステムの制作経験のある創造性豊かな学生を求めます。

審査においては、作品審査を行い、本人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断します。

5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは「Mastery for Service(奉仕のための練達)」。これは、第4代院長 C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

神学部

関西学院大学神学部は、1889年の関西学院創立と同時に設置された、最も古い伝統ある学部です。神学部はその設立時からキリスト教の伝道者育成を主要な目的として掲げています。1952年に新制大学の一学部として開設されてからも、学術的な質を高めつつ、高度な専門性を持つ伝道者・クリスチャンワーカーの育成に力を注いで来ました。

世界の動向を視野に入れ、21世紀における日本と世界のキリスト教宣教を担うためには、将来の伝道者・クリスチャンワーカーがしっかりしたキリスト教に関する専門的な知識を身につけるとともに、社会の諸現象への深い洞察力を持ち、他の諸分野と学問的な対話をする力を養う必要があります。

本学部では、このような趣旨に基づき、従来の学力審査では十分に表現できなかった多彩な能力を評価するためAO入試を行います。このAO入試では、自分自身の考えを表現し、対話する能力を評価するとともに、キリスト教信仰に根ざして伝道者・クリスチャンワーカーとなろうとする志、社会での経験や異文化との出会い、自分らしい思考や資格を重んじています。高校生、社会人や帰国生徒などの枠を越えて、広く志願者を募っています。

入学者選抜に際しては上述の趣旨ののち総合的に判断しますが、提出された書類・調査書によっておもにキリスト教理解を中心とした「知識・技能」と志望動機とを評価し、面接審査によっておもに「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を評価します。

文学部

関西学院大学文学部は、本学のスクールモットーである Mastery for Service(奉仕のための練達)の精神を踏まえ、人間の本質を追究するために深い学識と広い視野を養う学びの場です。文化や歴史、心理、文学や言語の教育研究を通じて、人間存在の営みの本質や現代的・普遍的な課題を追究します。

本学部では、このような考えに基づいて、AO入試を実施します。この入学試験は、従来の一般学力試験では判断することができない多様な能力を積極的に評価し、文化・芸術活動や語学能力で顕著な実績を持つ人で、意欲あふれる人を求めます。また、グローバルな視野を持った帰国生徒や豊かな社会経験を勉学・研究に活かそうとする人を求めます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の文学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

社会学部

関西学院大学社会学部は、知的好奇心と探究心にあふれ、幅広い視野・知識と柔軟な思考力を持ち、さらにそれに基づいた強い意志と行動力をもつ人材の育成をめざしています。問題意識を持ち、幅広く学び、自分の頭で考え、自分の体で調べ、自信をもって行動することのできる人間こそ、現代社会のそれぞれの現場で、さまざまな問題を発見し、そして解決していくことのできる人間だと考えるからです。また、そうした一つ一つの積み重ねによってこそ、よりよい社会が実現できると考えるからです。

本学部では、このような趣旨に基づいて、従来の一般学力試験では十分に発揮できなかった多様な能力を積極的に評価するために、AO入試を実施します。この入学試験は、大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を前提としたうえで、スポーツ活動、文化・芸術活動、社会貢献活動(ボランティア活動など)などの分野において、優れた活動を経験し、しかもその経験から得たものを大学での勉学と自己陶冶に活かして、本学部がめざす柔軟な思考力と積極的な行動力をもった人間に成長する可能性のある者を、積極的に迎え入れようとするものです。

したがってAO入試に応募する皆さんに問うのは、単なる活動の実績ではありません。皆さんがそれぞれの活動の経験から何を心得、どれだけ成長したのか、そしてそれらの成果を本学部での勉学と自己陶冶の基礎としつつ、さらに大きく飛躍する意欲をどれだけ持っているか、まさしくこの点を問うのです。

審査は、書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては、提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から、「態度・関心」「技能・表現」を中心に評価します。筆記審査においては、日本語資料および英語資料による読解・論述審査を行い、「知識・思考」「技能・表現」を中心に評価します。さらに面接審査においては、「態度・関心」「技能・表現」を中心に、総合的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部は、本学のスクールモットーである Mastery for Service の理念のもと、ソーシャル・アプローチという教育方針にもとづき、法学・政治学を多面的に考察することによって、幅広い社会現象を深く洞察できる力を養うとともに、明確な目的意識を持って社会に奉仕する精神を持った人材の育成をめざしています。また、国際化、高度化する現代社会においては、様々な分野において、豊かな人間性や高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材が求められており、このような素養を有する者を受け入れたいと考えています。

したがって、法学部では、大学での教育に必要な基礎的学力を有していることを前提に、一般入学試験では判断することが難しい様々な能力や社会奉仕精神を含む豊かな人間性、優れたコミュニケーション能力、またはリーダーシップを持ち、目的意識の高い学生を募集します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

経済学部

関西学院大学経済学部は、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てることを目的としています。

大学教育の場を活力と創造性に満ちたものにするためには、個性ゆたかで活力ある学生を受け入れることで、学生たちの間に生き生きとした状況を作り出し、さらには大学教育そのものを活性化すると考えています。経済学部が求めるのは、学問を通じて発揮される活力です。このような活力は、単に勉学においてだけでなく、生活全般にわたる人間としての働きのなかで培われるものです。そこで、高校時代の勉学のほか、学校内外での様々な活動に積極的に取り組んだ経験を通じて培われた能力や人間性、社会人としての経験などを出願資格とし、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。また、二次審査の面接審査では二つの方式を設けています。自己推薦型ではプレゼンテーションにより表現力・主体性などを評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。数学能力重視型では、数学に関する口頭試問を行い数理的能力について評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。

商学部

関西学院大学商学部の教育は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”の精神を踏まえ、真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成(Fostering Creative Minds for Business)を目的としています。このような教育理念と目的を具現化するために、現代社会の中で企業などの果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理技法、これら政策や管理技法の与える影響、企業などの社会的責任・倫理の重要性などを体系的に教育してきました。

激動の現代社会において、このような教育理念を実現し、本学の教育目的をより一層効果的に達成するためには、様々な経験や活動を通して豊かな人間性を身につけ、本学の建学の精神を理解し、商学部で学びたいという強い意志を持っている者を日本全国から商学部へ迎え入れることが必要です。そこで、従来の学力審査では十分にとらえることができなかった多彩な能力を認識し、当該能力を多面的に評価するために、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日：2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

人間福祉学部

人間福祉学部は、関西学院大学のなかで伝統のある「福祉」の分野をさらに進化させ、「人間そのもの」そして「その生活環境としての社会」について理解を深め、よりよい社会の実現をめざして学ぶ学際的分野をテーマとする実学志向の学部です。

社会福祉学科では、社会的支援の必要な人の自立や自己実現の援助、福祉に関する政策や現実を学び、未来の福祉を担うソーシャルワーカーとしてリーダーシップを発揮できる人材、社会起業学科では、国際的な視点とコミュニケーション能力を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力と知識を身につけ、社会起業とともに企業、自治体、NPO・NGO、国際機関などで社会のあり方を提案できる人材、人間科学科では、人間を「こころ(スピリチュアリティ)」と「身体」の両面からとらえ、「こころ」や「身体」を病む人や悲しみの中にある人に寄り添い、人々のQOL(いのちの質・生活の質)を支える人材を育成します。

AO入試では、基礎的な学力に加えて、社会貢献活動、文化・芸術活動の実績、体験・経験、創造力、能力・資格、リーダーシップなどで特色を持つ者、豊かな人間性と学ぶ意欲を持つ者を積極的に受け入れます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

国際学部

関西学院大学国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するため、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」「世界理解・国際理解のための能力」と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようにすることです。

本学部では、このような教育・研究上の理念・目的に基づいて、AO入学試験を実施します。この入学試験では、本学部に関心と学習意欲を持ち、文化・芸術活動に関して秀でた体験や経験を有する人、社会人を対象として、従来の一般学力試験では判断することができない多様な経験、活動を通じて身につけた豊かな人間性、将来性、可能性、能力を多面的に、積極的に評価します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、多様な能力を評価するAO入試を実施します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を書類審査、筆記試験(英語論述審査・課題小論文審査)、グループディスカッション等および、個人面接を行い、総合的に評価します。

総合政策学部

現代社会は、環境破壊や資源・人口問題、国際紛争など多くの深刻な問題をかかえており、各国政府や国際機関、非政府組織、民間団体などさまざまな組織や団体が、問題の解決をめざしています。関西学院大学総合政策学部では、「Think globally. Act locally.」(地球規模で考え、足元から行動せよ)をモットーに、こうした地球規模の問題に対して、いかにして適切な政策を打ち出せるかを幅広い学問領域を結集させ、総合的に追求しています。

総合政策学部が求めている学生像は、現実世界の問題に対してしっかりとした問題意識をもち、解決に向けて情熱を持って取り組むことで、人々がより幸福に暮らすことのできる社会の実現に貢献しようとする学生です。総合政策学部では、このような学生は少なくとも次のような能力を備えていなければならぬと考えています。1つ目は、現実世界の問題を解決したいという志と情熱を持っていることです。2つ目は、複雑に入り組んだ現実世界の問題を解きほぐし、その中から具体的な課題を発見・抽出するための想像力と論理的な思考力です。3つ目は、自らの考えや意見、政策提案を的確に表現し、伝達するための発信型のコミュニケーション能力です。

総合政策学部では、第1次審査として読解・論述審査を行います。第1次審査では、記憶力や単なる知識だけでは測れない読解力、思考力、論理力、表現力などを多面的に評価します。第2次審査では面接試験によって皆さんの情熱や想像力、論理的な思考力を審査し、提出された書類と合わせて、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

理工学部

関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎をしっかりと学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象にAO入試を実施します。豊かな自然の中にある神戸三田キャンパスに、最新鋭の研究装置・設備を備えた理工学部で、自然科学の真理の探究に挑戦してみませんか。そんな意欲のある若者たちが多数受験してくれることを願っています。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日：2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

＜数理科学科＞

数学は人間の持つ論証能力を用いて、数や図形の性質の探求、自然現象と社会現象の記述などを対象とする学問です。従来は、具体的事例から抽象されたモデルやその性質を調べる抽象的側面が強調されたこともありますが、現在では、高度に発達した数学を自然現象と社会現象に適用して理解を深め、科学技術の発展や人間活動に貢献するという方向が顕著になってきています。

2009年度より新設された数理科学科は物理学科数学専攻を発展拡充したもので、従来の数学と応用にも範囲を広げた応用数理の2つのコースがあります。ただし、コース分けは4年生からで、それまでは大学数学の基礎知識の修得とその応用能力の向上に努めます。数学の応用に当って必須のコンピュータ運用能力の向上を計ることもその一環です。

数理科学科では、AO入試において、高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて広く、「自由な発想」ができて「確かな思考力」を備えた、優秀な学生を求めます。審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学数理科学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜物理学科＞

電子機器をはじめ、私達の身の回りで物理学の知見を利用しないものは少ないでしょう。この事実は、物理学の特徴をよく表しています。

物理学は、様々な現象に共通する少数の機構や原理を見出し、それらによって多くの現象を理解しようとする。こうして得られた重要な原理は、理解しなかった現象のみならず、より広い現象にも適用できることがあります。この、個々の対象にとらわれない物理学の考え方・方法が、単なる技術改良に留まらない、今までに存在しなかった新しい技術の創生を導いてきました。

物理学をしっかりと学ぶことで、その知識と応用力が得られますが、何よりも、その学びの過程で、現状を論理的に分析して課題を発見し、対応を考える能力が鍛えられます。よって、物理学を学ぶ者には、まず、データに基づきながら物事を幅広くとらえ、粘り強く考えようとする強い意欲が必要です。そして、現代社会は、このような能力・意欲をもつ人材を求めています。

物理学科では、AO入試により、基礎学力をもとに暗記にたよらない自由な発想と幅広い思考のできる／意欲をもつ者を求めます。そして、物理学科で進められている、宇宙物理、物性実験、理論物理などの研究活動を通じて、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

審査においては、物理学に関する小論文審査を行い、本学物理学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜先進エネルギーナノ工学科＞

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するためには、新たなエネルギー技術の開発が不可欠であります。そのためには、従来の技術の枠組みに捉われない、学際的な新たな取り組みが必要です。

先進エネルギーナノ工学科は、ナノテクノロジーをベースとした新しいエネルギー科学・工学の教育研究を通して、上記課題の解決にチャレンジします。本学科では、「エネルギーを創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、「ものづくり」をキーワードに、基礎から応用までの体系的な教育研究を行うことにより、今度のグリーンイノベーションの核となる技術と人材の創出を目指しています。

本学科の卒業生は、電子・電気、素材、通信、自動車、重化学工業、エネルギーなどの産業や、エネルギー政策に携わる行政などの分野での活躍が期待されます。本学科で培った基礎力・応用力・柔軟な思考力を駆使して、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことができる人材として活躍します。

このような趣旨のもと、先進エネルギーナノ工学科ではAO入試によって、持続可能な社会を実現するための新しいエネルギー科学・工学に強い興味をもち、主体的な学びを通して成長しようとする意欲的な学生を募ります。

審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学先進エネルギーナノ工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

＜情報科学科＞

情報技術は社会のニーズの多様化に応えながら、日進月歩の発展を遂げるとともに、インターネットやスマートフォンなどの通信技術と連動することで、われわれの社会に深く浸透しています。

情報科学科では、次世代の情報通信を支える先進的な技術を開発できる人材を育成するため、情報システムとネットワークシステムに関する教育と研究に取り組んでいます。さらに、情報通信技術を基盤とした新しい産業や生活スタイルの創造を目指しています。このため、基礎的な理論を十分に学んだ上で、実践的なプログラミングや応用技術を駆使できる潜在力を秘めた、意欲と知的好奇心に富んだ学生に是非入学して欲しいと考えています。

このような趣旨のもと、情報科学科ではAO入試によって、学力試験のみではとらえきれない能力を持ち、情報通信技術およびそれを活かした分野で活躍する可能性を秘めた学生を広く募ります。プログラム制作(CやJavaなどによるプログラム、スマートフォン用アプリ、ホームページ、ゲーム等)や、情報処理やインターネットに関連したプロジェクト(文化祭などでの情報機器を使った展示、クラブのホームページ作成、情報機器を使ったボランティア活動等)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

<人間システム工学科>

ユーザの好みや感性に合わせた製品の開発など、人間を中心としたものづくりが産業における主要な課題となっており、改めて人とコンピュータシステムとの関わりが注目されています。

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるロボティクス技術やコピキタス技術の研究分野を強化します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間をトータルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しいヒューマンシステムインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもとに、本学科ではAO入試によって、従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を広く募ります。コンテンツ制作(映像作品、音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、アート等幅広く対象とする)やロボットの制作、またはこれらに関連したプロジェクト(文化祭や卒業式での映像を用いたイベントなど)の経験のある創造性豊かな学生を求めます。理系に限定せず、人間の心理的な特性や感性に興味を持つ意欲のある学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UHCR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UHCR)駐日事務所からの推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心としながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

文学部特別選抜入学試験(スポーツ活動)

さまざまな優れた能力をもつ者に文学部で学ぶ機会を与えるという観点から、高等学校においてスポーツ活動で優れた能力と競技実績をもち、大学教育を受けるに必要な基礎学力を有する者を選抜し、本学において、スポーツによって培われた個性を伸ばし、広く社会に寄与する人間を育成することを目的とします。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学部で学ぶにあたっての基礎的・基本的な「知識・技能」と、「思考力・判断力・表現力」を小論文によって評価します。また面接審査において「主体性・多様性・協働性」を評価します。

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】

関西学院大学大学院(博士課程前期課程)は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における研究能力または高度な専門性を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた一般的及び専門的教養、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】

関西学院大学大学院(博士課程後期課程)は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における研究能力または高度な専門性を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた専門性、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】

関西学院大学大学院(専門職学位課程)は、関西学院のミッション及び各研究科が定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」に共感し、専攻分野における学術の理論及び応用、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得するとともに、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶し、文化の進展に寄与することについて適性を有した学生を世界のあらゆる地域から受け入れる。

そのために、多様な入試制度を実施する中で、これまでに培われた専門性、資質、能力、意欲、人間性、研究指向性などを多角的に評価することを基本的な方針としている。

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄	
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	学士課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程前期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		博士課程後期課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
		専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			高大接続センター

【学士課程】 検証担当部局:高大接続センター

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	入試委員会
	検証手続き(どこで)	各学部での議論を経て、入試委員会で承認する
	決定・判断時期(いつ)	随時
	検証エビデンス	入試委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年3月、10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	各学部での議論を経て、入試委員会で承認した。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

【博士課程前期課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す) <input type="checkbox"/> その他()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 教務機構 高大接続センター
------	-----	------	-------------------------

【博士課程後期課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室		
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会		
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月		
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録		
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)		
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。		
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 5%; text-align: center;">→</div> <div style="width: 50%;"> <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 5%; text-align: center;">→</div> <div style="width: 50%;"> <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 5%; text-align: center;">→</div> <div style="width: 50%;"> <input type="checkbox"/> その他 () </div> </div>		
	判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き		
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> バンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

【専門職学位課程】 検証担当部局:学長室、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室		
	検証手続き(どこで)	教育課程基本方針策定委員会		
	決定・判断時期(いつ)	毎年1月		
	検証エビデンス	教育課程基本方針策定委員会議事録		
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)		
検証プロセス	検証方法(どのように)	教育課程基本方針策定委員会において適切性を議論し検証する。		
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 5%; text-align: center;">→</div> <div style="width: 50%;"> <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 5%; text-align: center;">→</div> <div style="width: 50%;"> <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:2018年度以降に学長室を中心に見直す) </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 5%; text-align: center;">→</div> <div style="width: 50%;"> <input type="checkbox"/> その他 () </div> </div>		
	判断根拠	「卒業認定・学位授与方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン、2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価帳票作成の手引き		
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> バンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
			教務機構
			学生活動支援機構

A-6	正課外教育の支援方針	変更の有無
関西学院大学は、めざす学生像の実現に向けて、正課教育に加えて、本学の学生が、さまざまなチャレンジを通して多様な価値観に触れることにより、異なる視点を身につけ、視野を広げ、視座を高めて自らの価値観を形成することを積極的に支援し、自ら考え行動し得る主体性を身につけた学生を育成する。 具体的には、「正課外教育プログラム」、「課外活動」、「ボランティア活動」を正課外教育とし、これらを教職員の関与・支援の下で提供・運用していく。 上記の取組みにおいては、諸活動を社会的規範意識や倫理観等を醸成する場としても捉え、本学での人格形成・陶冶に更に努める。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-6. 正課外教育の支援方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 チェック欄

【確認1】	正課外教育の支援方針は、A-2「学部・研究科の区別なく身につけておくべき知識・能力と学生像」や A-3「教育研究目標」等に沿い、本学のめざす方向性に合致した内容であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	正課外教育の支援方針は、本学構成員にわかりやすい表現となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	正課外教育の支援方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが) 学長室 検証手続き(どこで) 学長室会、教務機構長室会、学生活動支援機構長室会 決定・判断時期(いつ) 毎年10月(教務機構長室会、学生活動支援機構長室会)、毎年12月(学長室会) 検証エビデンス 学長室会議事録、教務機構長室会議事録、学生活動支援機構長室会議事録	
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように) 学長室が、教務機構、学生支援機構と連絡・調整し、各部局の会議体において適切性を議論し検証する。 検証結果 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
判断根拠	大学基準協会の大学基準、2016年度大学集中審議資料等	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室	キャリアセンター
			教務機構	ハラスメント相談センター
			学生活動支援機構	ボランティア活動支援センター
			国際連携機構	

A-7

学生支援に関する方針	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】 「一人ひとりの学生が誇れる何かを得ることができ、学生の個性を生かし、世界に通用する人材育成を実現すべく学生支援を強化する」</p> <p>学生生活を通して豊かな人間性を涵養し、学生の資質・能力を十分に発揮させると共に、多様な尺度で一人ひとりの学生が誇れる何かを得ることができる教育環境や学生生活環境を提供し、総合的な学生支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生のやる気を引き出し、学生の能力を伸ばすために、正課や正課外教育への支援をさらに強化するとともに、施設の再整備をはかる。 ② 勉学とスポーツ・文化活動の両立をめざす施策を進める。 ③ 日本と海外の学生が頻繁に行き来し、力を合わせた協働を通じて学生が多様性を学ぶ場を整備・構築する。 ④ 各部課が独立して提供している学生支援サービスを、連携するだけでなく、学生の視点から総合化する。 ⑤ 学生の入学前から卒業後までの基礎データや、アンケート調査によって収集した情報を集積し、統計的に分析することで学生の要望や悩み、課題などを把握して、より効果的な総合的な学生支援策を立案する組織体制や仕組みを構築する。 <p>【関西学院大学大学院(博士課程前期課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。</p> <p>【関西学院大学大学院(博士課程後期課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。</p> <p>【関西学院大学大学院(専門職学位課程)】 各研究科においてそれぞれ任意に定めることとする。</p>	<p><input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p>
<p>【留年者および休・退学者への支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 休・退学の申請は、各学部事務室で受け付け、原則として各学部の学生担当副学部長(学部生)もしくは大学院担当副学部長が面談をして許可している。その際に休・退学者の理由確認、今後の進路の相談を行う。 ② 各学部は成績不振に伴う学修意欲の低下を防ぐため、また長期欠席者の早期対応のために指導対象学生の抽出を行い、基礎演習・演習(ゼミ)担当者やアカデミックアドバイザーの教員と事務職員がペアとなって、個別相談および学修指導を実施する。都度、面談記録(学生毎)を作成し学部にて保存のうえ、学部内で情報共有を行う。なお、呼び出しに応じない学生についても、呼び出しの履歴等を記録に残す。アカデミックアドバイザー制度については、年2回程度、FD部会において本制度の運用状況に関する情報共有を行い、改善等に取り組む。 <p>※アカデミック・アドバイザー制度…各学部が成績不振学生の状況を把握した上で、履修や学修に関する個別指導による支援を当該学生に対して行うことを目的としている。</p> <p>【学生の能力に応じた補習・補充教育に関する支援】 <大学として一体的に行っている取り組み></p> <ol style="list-style-type: none"> ① ティーチング・アシスタント(Teaching Assistant, T. A.)、授業補佐(Student Assistant, S. A.)、ラーニング・アシスタント(Learning Assistant, L. A.)制度を活用した学部学生を対象とした学修支援 ・単に教員の授業運営を補助することのみが目的とされているわけではなく、提供する授業の円滑な運営を補助するとともに、履修者の学修理解の促進等に配慮することを主眼とする。 S. A. …情報処理の基礎教育充実に向けた教育支援体制充実の要請を受けて配置とする。 L. A. …学部および全学科目の導入科目等を主な対象として、授業内および授業外を問わず、履修者の指導や相談対応をとらして学修の支援を行うとともに授業運営を補佐する学部上級生の学生を配置することにより、学部等での教育の活性化と高度化に寄与することを目的としている。 ② 学習管理システム(Learning Management System, LMS)による学修支援 ・教員にとっては、授業の運営の補助を、学生にとっては、予習・復習など主体的な学習を補助するために導入している。 ・LMSの最大の目的は、学生の授業時間外での主体的な学習を促すことであり、コミュニティ機能を活用した教員-学生、学生-学生間の双方向性機能(グループ学習含む)を有効に活用した学習の活性化および高度化を図る。 ③ e-Learningコンテンツの全学提供 ・「英語力の飛躍的向上の推進」を実現するため、e-Learningによる授業時間外での自主学修用の英語教材としてならびに授業と連動させた学修課題への取り組みの確認を含む授業の補充教材としての活用をする。 ・情報科学科目「コンピュータ基礎」の履修者を対象に、「情報倫理」のコンテンツを授業外の時間に自主学修させる。 ④ スポーツ能力に優れたものを対象とした入学試験合格者対象の入学前準備教育の実施 ・初秋に合格が決定する当該入学試験合格者を対象に、概ね「英語」および「国語」(理工学部のみ「数学」)の通信講座を受講させることで、大学教育に不可欠な主体的な学修姿勢の獲得を目指す。 <p><各学部での個別取組> 各学部においても、各学部固有の課題に対応するための学修支援に取り組む。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</p>

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室	キャリアセンター
			教務機構	ハラスメント相談センター
			学生活動支援機構	ボランティア活動支援センター
			国際連携機構	

【障がいのある学生に対する修学支援】

関西学院大学の障がいのある学生に対する修学支援の基本的な考え方は、国連で決議された「障がい者権利条約」と2011年に改正された「障がい者基本法」に基づく考え方に準拠している。「めざす大学像」として「垣根なき学びと探求の共同体」の実現を掲げているように、障がいのある学生に対する修学支援は早くからその理念・目的を定めており、障がいのある学生が他の学生と同じようにキャンパスで学ぶことができるよう具体的な支援を進めていく。

※「関西学院大学の障がい者支援基本理念」

- ① 人は全て教育を受ける権利を有し、その能力に応ずる教育を受ける機会を等しく与えられなければならない。
- ② 関西学院大学はキリスト教主義をもって建学の精神としている。これを身体障がい者問題という具体的現実の中で問い直し、具体化していかなければならない。
- ③ 学生は自ら学習する権利とともに正当な教育サービスを受ける権利を有する。身体上の障がいの故にこの学生としての権利を享受することが損なわれることがあってはならない。

【奨学金による修学支援】

関西学院大学では、学力、人物ともに優秀で学資の援助を必要とする者(学部学生)や学業成績が特に優秀で学問研究に熱意を有し、学費の援助を必要とする者(大学院生)及びグローバルリーダー育成や海外留学などの修学支援のための奨学金を提供する。

【異文化交流・留学生支援】

- ① 学内交流スペースや混住型国際教育寮などによって、さまざまな学生が交流することにより異文化理解を深めることを促進する。
- ② 日本人学生とのピアエデュケーションを重視した日本語教育の強化のほか、日本人学生との融合に焦点を合わせた留学生支援体制の強化を図る。

【ピアエデュケーション・ピアサポート】

学生の自主的な学修の場(コモンズ)等の整備、ラーニングアシスタント制度の推進により、学生の相互啓発や主体的な学びを促進する。

【大学院学生の修学支援】

奨学金制度以外に在学生の研究を奨励するものとして次のような制度を設け、大学院生の修学支援を行う。

- ① 学院博士課程後期課程研究奨励金制度
若手研究者である博士課程後期課程の在学者のうち、研究能力が特に優れており、研究成果が期待できる者に対して研究奨励金を支給し、研究者としての成長を支援し、大学院における研究活動の活性化を図る。
- ② サーチ・アシスタント(RA)制度
博士課程後期課程在学者を特定の研究課題または共同研究プロジェクト等に研究補助者として参画させることにより、プロジェクトの推進と共に、若手研究者の研究遂行能力の育成を図る。
- ③ 教学補佐(Teaching Assistant)制度
授業の補佐、研究室・図書室等の運営などの教育支援業務、または教務事務の補助を行いながら研究できるよう支援する。
- ④ 大学院海外研究助成金制度
若手研究者である博士課程後期課程在学者および大学院研究員の海外における研究活動の支援し、研究者育成を図る。
- ⑤ 英語プレゼンテーション・スキル講座
海外等における国際学会発表で求められる、基礎的な英語運用能力や発表のためのスキルについて専門領域に特化せず、基礎から効果的に学び、スキル向上を支援する

【学生相談】

総合支援センターでは、心理・生活・修学領域の学生相談ははじめ学内事情に詳しいスタッフによる「なんでも相談」および関西学院大学卒業の弁護士による「なんでも法律相談」を含む学生支援を行い、学内外の諸機関と連携・協働の充実強化を推進している。
また相談者のなかで、外国語(英語)によるカウンセリングを希望する場合にはそれを紹介をする学生支援体制を確立している。

【ハラスメント防止】

本学の学生等に関わるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、及びその他の差別的な言動や取り扱いについて、「関西学院大学ハラスメント防止規程」を定め、「関西学院大学は、学生と教職員によって、教育と研究を目的として構成されている協同社会であり、キリスト教主義を基礎とした教育によりすべての構成員の尊厳と人権を尊重しあう姿勢を大切にしている。関西学院大学は、すべての構成員の生活上の安全を脅かすいかなる人権侵害をも容認するものでなく、ハラスメントに対しても同様である。よって本学では学生と教職員が協力しつつ、ハラスメントのない大学を目指すものである。」「関西学院大学ハラスメント防止規程」第1条)の基本方針に基づき、学長の下に大学ハラスメント防止委員会や関西学院大学ハラスメント相談センターを通して、組織的にハラスメント等の防止に取り組む。

【課外活動・ボランティア活動等の支援】

学生生活を通じて社会性や協調性を身につけ、自ら考え行動し得る主体性を身に付けた学生を育成するため、課外活動やボランティア活動等を支援する。

修学支援

生活支援

有り
無し

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室	キャリアセンター
			教務機構	ハラスメント相談センター
			学生活動支援機構	ボランティア活動支援センター
			国際連携機構	

	<p>【奨学金による経済的支援】 関西学院大学では、学部学生及び大学院生を対象に、家計急変者などの経済的支援を行う奨学金を提供する。</p>	
進路支援	<p>本学は、学士課程および博士課程前期課程の学生を対象に、教職員を置いたキャリアセンターを設置し、「キャリア教育の充実発展及び就職支援諸施策を推進」、「キャリア教育の確立に有用な施策の企画・立案・遂行」、「キャリアガイダンスをはじめとする就職支援に関する諸施策の企画・立案・遂行」などを行う。</p> <p>また、博士課程後期課程を修了または標準年限以上在学し退学した者や、専門職学位課程を修了後、資格試験合格をめざす者に対し、引き続き研究活動や勉学を継続してサポートするために、大学院奨励研究員制度、博士研究員制度、大学院研究員制度、研究科研究員制度、専門職大学院研修員制度を設けて進路支援を行う。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室	キャリアセンター
			教務機構	ハラスメント相談センター
			学生活動支援機構	ボランティア活動支援センター
			国際連携機構	

A-7. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認			チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	学位課程 博士課程前期課程 博士課程後期課程 専門職学位課程	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み </div>		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。		<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

【学生支援に関する方針(学士課程)】 検証担当部局:学長室

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室		
	検証手続き(どこで)	学長室会		
	決定・判断時期(いつ)	毎年12月		
	検証エビデンス	学長室会議事録		
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)		
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。		
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。		
		<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)		
		<input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:)		
		<input type="checkbox"/> その他()		
判断根拠		2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き		
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室	キャリアセンター
			教務機構	ハラスメント相談センター
			学生活動支援機構	ボランティア活動支援センター
			国際連携機構	

【学生支援に関する方針(博士課程前期課程)】 検証担当部局:学長室

適切性の検証 体制を明確に しているか	責任主体・組織(だれが)	学長室
	検証手続き(どこで)	学長室会
	決定・判断時期(いつ)	毎年12月
	検証エビデンス	学長室会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div>
	判断根拠	2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()

【学生支援に関する方針(博士課程後期課程)】 検証担当部局:学長室

適切性の検証 体制を明確に しているか	責任主体・組織(だれが)	学長室
	検証手続き(どこで)	学長室会
	決定・判断時期(いつ)	毎年12月
	検証エビデンス	学長室会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他() </div>
	判断根拠	2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室	キャリアセンター
			教務機構	ハラスメント相談センター
			学生活動支援機構	ボランティア活動支援センター
			国際連携機構	

【学生支援に関する方針(専門職学位課程)】 検証担当部局:学長室

適切性の検証 体制を明確に しているか	責任主体・組織(だれか)	学長室
	検証手続き(どこで)	学長室会
	決定・判断時期(いつ)	毎年12月
	検証エビデンス	学長室会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div>
	判断根拠	2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()

【学生支援に関する方針(修学支援)】 検証担当部局:学長室、教務機構、学生活動支援機構、国際連携機構

適切性の検証 体制を明確に しているか	責任主体・組織(だれか)	学長室、教務機構、学生支援機構、国際連携機構
	検証手続き(どこで)	学長室会、教務機構長室会、学生支援機構長室会、国際連携機構長室会
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月(教務機構長室会、学生支援機構長室会、国際連携機構長室会)、毎年12月(学長室会)
	検証エビデンス	学長室会、教務機構長室会、学生支援機構長室会、国際連携機構長室会議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室が、教務機構、学生支援機構、国際連携機構と連絡・調整し、各部局の会議体において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 20px;"> <input checked="" type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) 【障がいのある学生に対する修学支援】について見直した <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div>
	判断根拠	2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室	キャリアセンター
			教務機構	ハラスメント相談センター
			学生活動支援機構	ボランティア活動支援センター
			国際連携機構	

【学生支援に関する方針(生活支援)】 検証担当部局:学生活動支援機構、ハラスメント相談センター、ボランティア活動支援センター

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれか)	学生活動支援機構、ハラスメント相談センター、ボランティア活動支援センター、学長室		
	検証手続き(どこで)	学生活動支援機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会、ボランティア活動支援センター会議、学長室会、		
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月(学生活動支援機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会、ボランティア活動支援センター会議)、毎年12月(学長室会)		
	検証エビデンス	学生活動支援機構長室会、ハラスメント相談センター運営委員会議事録、ボランティア活動支援センター会議議事録、学長室会議事録		
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)		
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室が、学生活動支援機構、ハラスメント相談センター、ボランティア活動支援センターと連絡・調整し、各部局の会議体において適切性を議論し検証する。		
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。		
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()		
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> バンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()			

【学生支援に関する方針(進路支援)】 検証担当部局:キャリアセンター、教務機構

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれか)	キャリアセンター、教務機構		
	検証手続き(どこで)	キャリアセンター:「管理監督職ミーティング」「キャリアセンター連絡会」「キャリアセンター委員会」、教務機構:「教務機構長室会」		
	決定・判断時期(いつ)	毎年9月～11月		
	検証エビデンス	キャリアセンター:管理監督職ミーティング記録、キャリアセンター委員会記録、教務機構:教務機構長室会議事録		
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)		
検証プロセス	検証方法(どのように)	キャリアセンターの「管理監督職ミーティング」「キャリアセンター連絡会」「キャリアセンター委員会」、教務機構の教務機構長室会において、適切性を議論し検証する。		
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。		
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()		
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> バンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()			

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室
------	-----	------	-----

A-8

教員像	変更の有無
<p>関西学院はキリスト教主義に基づく教育を「建学の精神」とし、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としている。</p> <p>この関西学院のミッションステートメントを実現するために求められる教員像を、次の通り定めている。</p> <p>(教育者として) 学生の志や夢の実現に向けて真摯に向き合い、よりよい教育・研究に努め、学生の成長を喜びとして誇りと情熱をもって取り組む教員</p> <p>(研究者として) 専門分野においては、学界や社会から高い評価を受け、社会に貢献し、かつ社会から尊敬される教員</p> <p>(組織の構成員として) 上下の隔たりがなく、組織の発展、継続のために、自らの優れた知識・能力だけでなく、多くの教職員の意見やアイデアを引き出し、尊敬、信頼を得る教員</p> <p>(人として) 学識、識見はもちろん、人望、人徳、誠実さを備えた人として魅力のある教員</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
教員組織の編制方針	変更の有無
<p>教員組織の編制方針については、学部・研究科がそれぞれ定めることとし、大学全体での方針は定めない。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

A-8. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認 チェック欄

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ								
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ								
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ(2017年度内に対応)								
適切性の検証体制を明確にしているか	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">責任主体・組織(だれが)</td> <td>学長室</td> </tr> <tr> <td>検証手続き(どこで)</td> <td>学長室会</td> </tr> <tr> <td>決定・判断時期(いつ)</td> <td>毎年12月</td> </tr> <tr> <td>検証エビデンス</td> <td>学長室会議事録</td> </tr> </table>	責任主体・組織(だれが)	学長室	検証手続き(どこで)	学長室会	決定・判断時期(いつ)	毎年12月	検証エビデンス	学長室会議事録	
責任主体・組織(だれが)	学長室									
検証手続き(どこで)	学長室会									
決定・判断時期(いつ)	毎年12月									
検証エビデンス	学長室会議事録									
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)									
検証プロセス	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">検証方法(どのように)</td> <td>学長室会において適切性を議論し検証する。</td> </tr> <tr> <td>検証結果</td> <td> <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 </td> </tr> <tr> <td>判断根拠</td> <td>2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き</td> </tr> </table>		検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	判断根拠	2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き		
検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。									
検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。									
判断根拠	2017年度関西学院大学 聖和短期大学自己点検・評価 帳票作成の手引き									
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> バンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()									

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	人事部
			学長室

A-11

管理運営方針	変更の有無
<p>関西学院のミッション・ステートメントのもと、教育・研究機関としての使命と役割を果たし、新基本構想、スーパーグローバル大学創成支援事業構想、中期計画の実現をめざすことを管理運営の基本とする。</p> <p>【ガバナンス・マネジメント】 関西学院の新たなガバナンス改革の一環として、2013年度から「経営」と「教学」の共同体体制を目指した法人本部と大学執行部との一体的運営の仕組みを構築した。具体的には、執行体制として「学長の副理事長への就任」「常任理事と副学長との兼任(いわゆる「たすきがけ」)」を行い、意思形成機関として「総合企画会議」「常任執行会議」を設置した。今後は、この仕組みを活用し、「経営」と「教学」の共同体体制による意思決定過程の集約・簡素化を実現し、全体最適をめざしたマネジメントを実現する。 また、大学の教育研究にかかる事項については、学長は教授会、大学評議会等の議決その他を参酌しつつ最終決定する。</p> <p>【大学の組織】 2013年度から類似した役割を持つ組織を「機構」の下にまとめて、意思形成を集約するために、従来からの研究推進社会連携機構に加え、教務機構、学生活動支援機構、情報環境機構、国際連携機構を設置し、この機能整備をさらに進め、大学全体に関する政策立案、推進、サービス支援の充実強化を図っていく。</p> <p>【事務組織】 組織を明確にするため、職制(教職員の職種および職種の内容)および職務分掌規程(業務範囲)を定めて必要な事務組織、適切な人員配置を行っている。業務が多様化、複雑化する中では、常に事務組織の在り方を検討するために、常務委員会のもと事務組織検討委員会を設置し、全体最適をめざしながら、部署の新設、統廃合を実施している。大学の事務組織としては、大学の5つの機構にそれぞれ機構事務部を設けることにより統合的な事務組織を設置し、各事務部長が機構内の事務を統轄し、効率的、効果的な組織運営(企画、管理)、予算執行等をめざす。その上で、大学事務統轄が大学全般を統轄する。 一方、事務職員が果たすべき役割も多様化、複雑化する中で、優秀な人材確保そして職員の能力開発、人材育成が喫緊の課題となっている。関西学院が期待する職員像・7つの能力に向け、更に少子高齢化や国際性の高まりなど、教育研究を取り巻く環境変化を踏まえたこれからの大学運営に、より高度な専門能力やスキルが求められてくる。そのような能力を有する事務職員の積極的な育成を図っていく。</p> <p>※「期待する職員像」(関西学院研修ガイド(事務職掌用))</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生の成長に真摯に向き合い、教学、学生支援に情熱と誇りをもって行動できる職員 ② 自らの向上のために自己研鑽と職員同士の相互研鑽を進め、協働の中で自己の役割、責任を果たす職員 ③ 国際的な感覚と地域との共生の視点を持ち、さらなる専門性を強化・向上している職員。そして、常に広い視野を持ち改善・改革に目的意識をもって、積極的に取り組み迅速に行動する職員 ④ 人間として人望、人徳を積み上げ、他人(ひと)や社会から信頼され、尊敬される職員 <p>※「職員に求められる人材(7つの能力)」(関西学院研修ガイド(事務職掌用))</p> <p>政策形成能力に優れた人材、行政経営能力に優れた人材、人材育成能力に優れた人材、コミュニケーション能力に優れた人材、広い視野と先見性をもった人材、情報収集・調査・分析能力に優れた人材、高度な専門性をもった人材</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p>

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	人事部
			学長室

A-11. 管理運営方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	管理運営方針は、意思決定プロセスや、権限・責任(教学組織と法人組織との関係性含む)、中長期の大学運営のあり方を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	管理運営方針は、教職員に周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

【ガバナンス・マネジメント】 検証担当部局:学長室

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室	
	検証手続き(どこで)	学長室会	
	決定・判断時期(いつ)	毎年12月	
	検証エビデンス	学長室会議事録	
	前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。	
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:) </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <input type="checkbox"/>その他 () </div> </div>	
	判断根拠	「KG VISION 150(仮称)及び中期総合経営計画の策定について」(2016年7月21日)、大学基準協会の大学基準等	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

【大学の組織】 検証担当部局:学長室

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室	
	検証手続き(どこで)	学長室会	
	決定・判断時期(いつ)	毎年12月	
	検証エビデンス	学長室会議事録	
	前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会において適切性を議論し検証する。	
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:) </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 5px;">→</div> <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <input type="checkbox"/>その他 () </div> </div>	
	判断根拠	「KG VISION 150(仮称)及び中期総合経営計画の策定について」(2016年7月21日)、大学基準協会の大学基準等	
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()		

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	人事部
			学長室

【事務組織】 検証担当部局: 人事部、学長室

適切性の検証 体制を明確に しているか	責任主体・組織(だれが)	人事部、学長室	
	検証手続き(どこで)	人事部下会議、学長室会	
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月(人事部下会議)、毎年12月(学長室会)	
	検証エビデンス	人事部下会議、学長室会議事録	
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室会と人事部で連絡・調整を行い、人事部下会議、学長室会において適切性を議論し検証する。	
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	
	判断根拠	「KKG VISION 150(仮称)及び中期総合経営計画の策定について」(2016年7月21日)、大学基準協会の大学基準等	
周知・公表方法		<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	総合企画部
			学長室

A-13

内部質保証に関する方針	変更の有無
<p>【関西学院自己点検・評価規程】</p> <p>(1)「教育研究水準の向上を図り、学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営等の状況について自ら点検及び評価を行う。」(第1条)</p> <p>(2)「法人・大学等及びその各部局は、自己点検・評価結果に基づき、その教育研究活動等について改善が必要と認められた場合は、その改善に努めなければならない。理事長等は、総括結果を法人等の年度計画及び中長期計画に反映させるように努めなければならない」(第9条)</p> <p>【自己点検・評価を推進するうえでの視点】</p> <p>(1) 高次でより自律的な教育研究の質向上、実質的に効果を上げる取組み 自らの教育研究活動及び管理運営等の取組みについて、教職員が自律的且つ積極的に、本学の個性や専門分野の特性、国際通用性の観点等からの点検・評価を行い改善点を明確にすることで、学院全体の諸活動の質向上を図り、学院の目的及び社会的使命達成に寄与する活動とする。</p> <p>(2) 本学の理念・目的、教育研究目標、各方針から自己点検・評価の行動計画までを構造化し、関係性を明確にした取組み 各部局の自律性に配慮しつつ、本学の理念・目的、目標と整合性が取れた自己点検・評価の取組みを推進することで、学院全体として理念・目的の実現に向けた一体感のある、高い水準の取組みとする。</p> <p>(3) 客観的・合理的データに基づいた取組みの推進 信頼性の高い質保証を行うため、客観的で合理的なデータによって本学の教育・研究の質を示す点検・評価活動を行う。そのためには、データを開発・収集・蓄積し常に進捗状況を数値等によって確認できる仕組みを構築することで、自らの証明能力を高めていく。</p> <p>(4) 学院全体での教育研究活動・管理運営の改善に繋がる取組みの共有、展開 自己点検・評価の取組みを通じて明らかになった教育研究活動や管理運営上の課題や好事例は、関西学院評価推進委員会を通じて全学で共有し、必要な場合には助言・勧告を行い学院内諸施策に展開することで学院全体の改善に繋げる。</p> <p>(5) 環境変化に応じた目標、行動計画等の見直し 本学の教育研究目標や各種方針、自己点検・評価の行動計画等は、適宜見直しを行うことが可能な取組みとすることで、学院を取り巻く社会環境等の変化に即応した点検・評価活動とする。</p> <p>(6) 適切性を担保するための第三者評価の実施 本学の教育研究活動及び管理運営の取組みに関する自己点検・評価の適切性が確認されるよう、学内教職員と学外有識者による第三者評価を実施する。</p> <p>(7) 積極的な情報公開による社会への説明責任 本学の社会的責任を果たすため、自己点検・評価結果を公表する。</p> <p>(8) 認証評価機関による認証評価への対応 社会に対して本学の教育の質を保証するため、第三者評価機関による認証を得る。</p> <p>(9) 「質」の文化の醸成 内部質保証の取組みが日常的な活動として学院に根付き、自律的かつ恒常的な改善の取組みが継続されるよう、自己点検・評価および関連する諸施策を積極的に展開する。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>無し</p>

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	総合企画部
			学長室

A-13. 内部質保証に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学外者の意見を聴取する等、内部質保証の取組みの客観性・妥当性を高めるための工夫をしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	文部科学省及び認証評価機関からの指摘事項に対して、適切に対処しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	内部質保証に関する方針は、教職員に周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	学長室
	検証手続き(どこで)	評価情報分析室、学長室会
	決定・判断時期(いつ)	毎年10月(評価情報分析室長会)、毎年12月(学長室会)
	検証エビデンス	評価情報分析室会議事録、学長室会議事録
前回の機票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学長室と評価情報分析室で連絡・調整を行い、学長室会、評価情報分析室長会において適切性を議論し検証する。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input checked="" type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画: 第三期認証評価では内部質保証システムの有効性に着目した評価が行われる。また本学では創立150周年に向けた将来構想の検討が進められている。これらの状況から、大学だけでなく関西学院全体における内部質保証の実質化および業務効率化に向けたマネジメントシステムのあり方について、昨年度末から検討をしている。2018年度中には新たな制度を確立する予定であり、それに応じて内部質保証に関する方針も見直すことにしている。)
	判断根拠	(第3期認証評価用)大学評価ハンドブック、「KG VISION 150(仮称)及び「中期総合経営計画」の策定について」(2016年7月21日)等
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	法人部
			学長室

A-14	キリスト教主義に基づく教育に関する方針	変更の有無
	<p>本学創立時に起草された「関西学院憲法」に明記されている目的の一つである「全人教育(intellectual and religious culture)」という意味を理解し体現する人を育てるための取り組みを進める。</p> <p>※【キリスト教主義教育】</p> <p>125年を超える歴史を持つ関西学院はキリスト教主義により教育を行う学園として、変わることのない神の守りと導きのうちに歩み続けてきました。私学はそれぞれ教育の理念を持って建てられていますが、関西学院のそれは「キリスト教に基づく青年教育」であると、創立時に定められた関西学院憲法に明記されています。キリスト教に基づく高邁な全人教育(intellectual and religious culture)の理念に燃えて学院は始められました。この創立者の精神と祈りを大切にしながら、毎年多くの新入生を迎え、また多くの卒業生を世に送り出してきたのです。</p> <p>関西学院のキリスト教主義教育の理念を具体的に示すものとして、わたしたちは Mastery for Service というスクール・モットーを持っています。これは第4代の院長であったベーツ先生が学生に語られた言葉であり、自己修養(練達)と 献身(奉仕)を合わせ持つ生き方に、人間の真の生き方を示されたのです。学校は学ぶ所であり、自らの人格を形成する所ですから、当然そのために努力することが求められます。自らを鍛えるためには、厳しい訓練が要求されることは言うまでもありません。</p> <p>しかもそうして自分の身に付け、手に入れたものを、ただ 自己の名誉や欲望のために用いるのではなく、他者のため、世界のために献げることを、このモットーは勧めています。中学部、高等部、大学ともチャペル・アワーが設けられ、学院のすべての公的行事は祈りをもって始められています。それは人の思いを越えて働きたもう神の導きを受けつつ進んで行きたいという決意の表れです。</p> <p>※【関西学院憲法】</p> <p>関西学院の建学の精神は、創立時の憲法に明記されており、この精神は現行の学校法人関西学院寄附行為(1951年)の第三条で「この法人は教育基本法及び学校教育法に従いキリスト教主義に基づいて教育を施すことを目的とする」と再規定している。</p> <p>憲法第二款</p> <p>本学院ノ目的ハ、基督教ノ伝道ニ従事セントスル者ヲ養成シ、且ツ基督教ノ主義ニ拠リテ日本青年ニ知徳兼備ノ教育ヲ授クルニアリ</p> <p>CONSTITUTION OF THE KWANSEI GAKUIN Art. II— Object</p> <p>The object of this institution is the training of chosen young men for the Christian Ministry, and the intellectual and religious culture of youth in accordance with the principles of Christianity.</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-14. キリスト教主義に基づく教育に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄								
【確認1】	「キリスト教主義に基づく教育に関する方針」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ								
【確認2】	「キリスト教主義に基づく教育に関する方針」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ								
適切性の検証体制を明確にしているか	<table border="1"> <tr> <td>責任主体・組織(だれが)</td> <td>大学宗教主事会(議長:大学宗教主事)</td> </tr> <tr> <td>検証手続き(どこで)</td> <td>大学宗教主事会での審議を経て、決裁・承認している。</td> </tr> <tr> <td>決定・判断時期(いつ)</td> <td>毎年春と秋</td> </tr> <tr> <td>検証エビデンス</td> <td>大学宗教主事会議事録</td> </tr> </table>	責任主体・組織(だれが)	大学宗教主事会(議長:大学宗教主事)	検証手続き(どこで)	大学宗教主事会での審議を経て、決裁・承認している。	決定・判断時期(いつ)	毎年春と秋	検証エビデンス	大学宗教主事会議事録	
責任主体・組織(だれが)	大学宗教主事会(議長:大学宗教主事)									
検証手続き(どこで)	大学宗教主事会での審議を経て、決裁・承認している。									
決定・判断時期(いつ)	毎年春と秋									
検証エビデンス	大学宗教主事会議事録									
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)									
検証プロセス	<table border="1"> <tr> <td>検証方法(どのように)</td> <td>大学宗教主事会において適切性を議論し検証した。</td> </tr> <tr> <td>検証結果</td> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 </td> </tr> <tr> <td>判断根拠</td> <td>大学宗教主事会議事録</td> </tr> </table>	検証方法(どのように)	大学宗教主事会において適切性を議論し検証した。	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。	判断根拠	大学宗教主事会議事録	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他()		
検証方法(どのように)	大学宗教主事会において適切性を議論し検証した。									
検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。									
判断根拠	大学宗教主事会議事録									
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> バンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()									

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	学長室 人権教育研究室
------	-----	------	----------------

A-15

人権教育・人権問題に関する方針	変更の有無
<p>「関西学院大学人権教育の基本方針」(2014年3月)を周知させていくことを通して、関西学院大学のすべての構成員が人権への理解を深め、人権を活用する能力を身につけていくことができるように努める。</p> <p>※【関西学院大学人権教育の基本方針】 <はじめに> 1948年に国連で採択された世界人権宣言では、「人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とにおいて平等」(1条)な存在であるという確信の下に、すべての人の権利として25条にわたるさまざまな権利を確認している。戦後の日本では、憲法に基づき国家が人権を保障する義務をもつという近代的立憲主義を採用し、さらに国際人権諸条約の批准や国内法を通じて、人権を守ることを約束してきた。しかしながら、現実には日本や世界には差別などの人権侵害により尊厳を奪われる状況はなくなり、グローバル化、情報化社会などの進展と共に新たな課題も生まれている。 人権が保障される社会を作るために貢献することは、すべての人、組織の任務である。とりわけ、キリスト教主義にもとづく「隣人愛」を基礎におき、“Mastery for Service”を体現する世界市民を育むことを目的とする本学にとっては、その目的(ミッション)と深く関わる中核的な課題である。 関西学院大学では、1970年代に起きた部落差別事件をきっかけに、同和問題への取り組みの遅れを初めとする人権への取り組みについて反省を迫られることとなった。この教訓の上に、1975年に大学評議会において「同和教育の基本方針」を採択し、「全学的課題としての同和問題に対して、それぞれの場において、より積極的に取り組む」ことを確認、全学的な教育・研究の取り組みを開始した。その後、日本における人権課題への意識も深まり、それにともない本学における人権教育の課題も拡大し、在日コリアン、障がい者、ジェンダー、在日外国人、セクシャル・マイノリティ、子どもなどに関わる人権上の課題にも取り組むようになっていく。 本基本方針では、こうした過去の経緯を踏まえた上で、さらに発展させていくため、今後の本学の人権教育に関わる基本的な考え方を確認するものである。</p> <p>1. 建学の精神、ミッションと人権教育 本学はその建学以来キリスト教主義(Principles of Christianity)に基づき、その歴史の中で生み出されたスクールモットー“Mastery for Service”の実践を教育・研究の重要な目的として今日に至っている。その実践の根底にあるものはキリスト教的「隣人愛」に他ならない。ここで意味される「隣人愛」とは、自らが関わる相手と自分と関わりなく存在するものとしてとらえるものではなく、常に相手との積極的な関わりの中で自らのあり方を根本的かつ批判的に問いながら実践するものでなければならない。すなわち、その実践においては、個々人の「いのち」と尊厳が常に遵守される社会を創造するための感性と行動を不断に問いつつ、一人一人が自らを「絶対化」しようとする誘惑と常に対峙する必要がある。 さらに今日、本学は創立者 W.R.ランバスの生涯にならい、世界市民(World Citizen)をはぐくむことを大きな目的の一つとしている。建学の理念を鑑みたととき、本学が目指す世界市民とは、他者と対話し共感する能力を身につけ、よりよい世界の創造に向けて責任を担う人々であると考えられる。 そして、他者と共感する力を持つためには、固定観念や偏見を廃しながら、人の多様性を受け入れることが前提となる。また、自己と他者の権力関係を正しく理解し、不当な抑圧を生み出さず、差別などの人権侵害を見抜く眼が不可欠である。 他者と対話しながら、よりよい世界の創造に貢献していくためには、「人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とにおいて平等」な存在であるという共通の確信に導かれつつ対話を行う力が必要となる。また、人の尊厳が守られる社会を生み出す過程に参加する力と意思も必要となる。 人権の前提である確信、すなわち「人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とにおいて平等」な存在であることを理解し、人権を活かしながらよりよい社会を生み出す力を身につけることは世界市民の前提条件と考えられる。 このように、人権教育は、本学のミッションの中核に関わる。このため、本学における人権教育はそれを専門とする一部の教員だけが実施するのではなく、多くの教職員と学生の参加を得ながら共に作り上げてきており、今後も全学的な取り組みを深めていく。</p> <p>2. 人権教育でなにをめざすか 本学では、学生の大学での体験総体を通じて、人権を支える価値観・姿勢、人権への理解、人権の活用能力をはぐくむことをめざす。具体的には、次のような教育目標をもって人権教育を行いたい。 1) 人権を支える価値観・姿勢を獲得する 人は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とにおいて平等な存在であるという確信を持つことができるようになる。 このためには、日本や世界に存在する差別の実態を、歴史的、社会的、政治的、文化的、経済的な背景などを含めて理解する必要がある。さらに、自らにある「固定観念」や「偏見」を直視し、それらによって人の多様なあり方を受け入れることができなくなったり、マイノリティの状況が理解できなくなったりすることがないようにしなくてはならない。 2) 人権への理解を獲得する 人々の尊厳を損なう権力関係が社会に存在していることを認識することができるようになる。 その上で、権力関係のありかたを問いつつ、人の尊厳を守ることを可能とする人権のさまざまな役割を理解し、加えて、「人間の自由、尊厳と権利の平等」を実現するためには、変化する社会の中で新たにどのような人権が必要なのかを構想できるようになる。 3) 人権を活用する能力を獲得する 自己と他者の人権擁護のために、具体的な状況において人権を適用し、それらを理性的に活用しながら問題解決を行う方法を見つけることができ、その実現のために行動することができるようになる。</p> <p>3. 人権教育の前提としての大学における人権保障 人権を理解し、その役割を確信するためには、自らや他者の人権が守られる環境で学ぶことが不可欠である。大学の中で人権が守られる環境を作ることは、学生の権利保障のためのみならず、人権教育の実現のためにも欠かせない。これは、「多様性を力とする垣根なきコミュニティ」を生み出すことにもつながる。 とりわけ、以下を実現する責務を大学は持つ。 1) 多様性の尊重、偏見・差別の排除をもとに大学の構成員一人一人がハラスメントなく学び、働ける環境を保障する。被差別部落出身などの社会的出自、ジェンダー、障がい、国籍、人種・民族、宗教、性的指向などに基づく差別は許されない。 2) 国際人権諸条約や関連国内法に基づき、障がい者が等しく教育を受けるための権利、または同等に働く権利を、合理的な配慮に基づく支援の提供も含めて、保障する。 3) これらを含めた人権の保障は、すべての大学の構成員の責務である。大学はこの責務を果たすため教職員向けの研修等を実施する。また、学生支援、ハラスメント防止、人権教育などに関わる部門は、それぞれの機能に応じて連携する。これらの大学による人権保障の実現は、見直しを行いながら継続して改善する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p>

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート

～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

主管部局	学長室	担当部局	ボランティア活動支援センター
------	-----	------	----------------

A-16	ボランティア活動・教育に関する方針	変更の有無
	関西学院内のさまざまなボランティア活動に関する情報の収集・発信を行うと共に、ボランティア活動を活性化させ、同時に関西学院と地域の開かれた関係を築くことによって、関西学院のスクールモットー「"Mastery for Service"を体現する世界市民の育成」を図る。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

A-16. ボランティア活動・教育に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「ボランティア活動・教育に関する方針」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「ボランティア活動・教育に関する方針」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	ボランティア活動支援センター会議(議長:副学長)
	検証手続き(どこで)	ボランティア活動支援センター会議において決裁・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年3月
	検証エビデンス	ボランティア活動支援センター会議議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年10月、2018年2月) (2017年度第2回、第3回ボランティアセンター会議) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	ボランティア活動支援センター会議にて、2017年度に入って変更した「達成度評価」の「評価指標」とそれともなう「年度ごとの目標値」について、承認を得た。また、行動計画(②、③)についても、「達成度評価」の「評価指標」とそれともなう「年度ごとの目標値」を変更したが、それについても、同様に承認を得た。なお、行動計画①(センターの設立)については、2016年度スタート時に達成済み。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。 (見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他()	

2017年度 自己点検・評価【大学執行部】

A票変更点
記述シート

<A票変更点記述シート>

提出日：2018年2月22日

【A票変更点記入欄】

項目名	A-3 教育研究目標
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p>目標6の(タイトル)を変更</p> <p> <変更前>大学院のあり方 ↓ <変更後>大学院の充実</p>
	<p><変更理由></p> <p>昨年度の評価専門委員会・第三者評価での指摘を受けて、目標の内容に適したタイトルに変更</p>
項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p>文学部アドミッション・ポリシー</p> <p>(1行目)文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて…(略)</p> <p> ↓ 文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育ならびに人文学の修得を通じて…(略)</p>
	<p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>
項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p>経済学部アドミッション・ポリシー</p> <p>(以下追加)</p> <p>本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考える人材を育てていきたいと考えております。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。</p> <p>以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p>
	<p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>

<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容> 教育学部アドミッションポリシー</p> <p>より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち……(最後までを以下に変更)</p> <p>具体的には、以下のような人材を受け入れます。 ●人間・社会に対する幅広い関心を持ち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。 ●高等教育に相応しい学力を持ち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。 ●多様な価値観への理解・共感を持ち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。 ●関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。 以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い、評価しています。</p> <p><変更理由> 学部の検証による。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容> 理工学部アドミッション・ポリシー</p> <p>……(最終行)次のような学生を求めます。 ↓ ……(最終行)次のような学生の入学を期待します。</p> <p><変更理由> 学部の検証による。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容> Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 1. 一般選抜入学試験</p> <p>学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」に記述式を採り入れ必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。</p> <p>↓</p> <p>学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」を必須とし、「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。</p> <p><変更理由> 表記の誤りの修正、及び新規入試制度の追記</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容> Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 2. グローバル入学試験 ① 国際貢献活動を志す者のための入学試験</p> <p>口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。</p> <p>↓</p> <p>口頭試問・適性面接審査では日本語および英語による面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを評価しています。</p> <p><変更理由> 表現をよりわかりやすくするための修正。</p>

<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 2. グローバル入学試験 ⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験</p> <p>筆記審査は英語、数学、理科(物理・化学・生物のうち1科目選択)により行います。これらの教科・科目における基本的な学力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果とあわせて第一次審査を行います。面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問や、学ぶ意欲、人間性を評価し、一次審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。</p> <p>また、面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに学ぶ意欲、人間性を評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>⑤ 指定校推薦入学 教育学部</p> <p>教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どものかかわりや保護者のかかわりも密です。それら他者のかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。</p> <p>具体的には、以下のような人材を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人間・社会に対する幅広い関心を持ち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。 ●高等教育に相応しい学力を持ち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。 ●多様な価値観への理解・共感を持ち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。 ●関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。 <p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>㊦5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>4. 公募制推薦入学試験</p> <p>1)スーパーグローバルハイスクール・教育連携校対象公募推薦入学試験</p> <p>↓</p> <p>1)スーパーグローバルハイスクール対象公募推薦入学試験</p> <p><変更理由></p> <p>入試内容変更に伴う入試名称の変更、および文章該当部分の変更。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>4. 公募制推薦入学試験 2)スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験</p> <p>スーパーサイエンスハイスクール 課題研究等を通じて高められた科学的能力と強い勉学意欲を有する生徒を本推薦入学試験によって求め、その能力を関西学院大学理工学部の教育によりさらに向上させ、将来国際的に活躍する科学技術系人材に育成することを目的としスーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験を実施します。</p> <p>一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において面接を中心にしながら工夫をこらした審査を行い、課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価します。</p> <p>スーパーサイエンスハイスクールにおいて、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。</p> <p>一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>入試内容変更に伴う変更。</p>

項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p>(以下に変更)</p> <p>4. 公募制推薦入学試験 3) 理工学部 公募制推薦入学試験</p> <p>物理学科 物理学科では、自由な発想と幅広い思考を武器に様々な問題に取り組める人材の育成を目指すにあたり、本入試において、物理学や天文学の体系的な知識・技能の習得とその活用が高い情熱を有する者を求めます。審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p>生命科学科 生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。審査においては、小論文審査を行い、論理的な思考力と表現力の有無を判定します。また、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに、生命科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p>生命医化学科 生命医化学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命医化学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに、生命医化学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p>人間システム工学科 審査においては、作品審査を行い、本学人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>入試の変更の伴い学部の検証による。</p>
項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p>5. AO入学試験 文学部</p> <p>(4行目)また、グローバルな視野を持った帰国生徒や豊かな社会経験を勉学・研究に活かそうとする人を求めます。 ↓ また、豊かな社会経験を勉学・研究に活かそうとする人を求めます。</p> <p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>
項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p>5. AO入学試験 教育学部</p> <p>教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どものかかわりや保護者のかかわりも密です。それら他者のかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。 ↓</p> <p>具体的には、以下のような人材を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人間・社会に対する幅広い関心をもち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。 ●高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。 ●多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。 ●関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。 <p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>

<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>5. AO入学試験 理工学部 <数理科学科></p> <p>審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学数理科学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに、数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>入試内容変更に伴う変更。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>5. AO入学試験 理工学部 <物理学科></p> <p>審査においては、物理学に関する小論文審査を行い、本学物理学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>入試内容変更に伴う変更。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>5. AO入学試験 理工学部 <先進エネルギーナノ工学科></p> <p>審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学先進エネルギーナノ工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに、先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>5. AO入学試験 理工学部 <情報科学科></p> <p>審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>

<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)</p> <p><変更内容></p> <p>5. AO入学試験 理工学部 <人間システム工学科></p> <p>審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p> <p><変更理由></p> <p>学部の検証による。</p>
<p>項目名</p> <p>変更内容とその理由</p>	<p>A-7 学生支援に関する方針</p> <p><変更内容></p> <p>修学支援【障がいのある学生に対する修学支援】 「関西学院大学の障がい者支援基本理念」を削除し、以下の「障がい学生支援に関する基本方針」(2016年4月1日制定)を追加。</p> <p>※「障がい学生支援に関する基本方針」 趣旨</p> <p>1. この基本方針は、本学の建学の理念であるキリスト教主義に基づき、修学意思を持つ障がいのある学生を受け入れ、合理的配慮に基づく支援内容を含め、修学のために必要な支援を行い、障がいのある学生の学ぶ権利を保障する際の基本的な考え方を示すことを目的とする。</p> <p>2. この基本方針は、全ての教職員が障がい学生支援の充実・向上を図ることを目的として、「国連・障害者の権利に関する条約」「障害者基本法」「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」等を遵守し、次のとおり定めるものである。</p> <p>基本方針</p> <p>1. 機会の確保 本学に在籍する障がいのある学生が、障がいのない学生と等しく学生生活が送れるよう修学機会を確保する。ただし、学術研究機関としてふさわしい教育研究の水準を維持するものとする。</p> <p>2. 受入姿勢・方針に関する情報公開 障がいのある大学・大学院進学希望者や在籍する障がいのある学生に対し、大学としての受入姿勢・方針を公開する。</p> <p>3. 支援を受ける人の対象範囲 本学に入学を希望する障がいのある人および本学に在籍する障がいのある大学生・大学院生、特別学生、交換留学生等を対象に必要な支援を行う。</p> <p>4. 決定過程 障がいのある学生(本学に入学を希望する障がいのある人を含む)が権利主体であることを踏まえ、障がいのある学生一人ひとりのニーズに基づき学生の所属学部・研究科と関係部課が相談の上、個別に支援方針を決定する。なお、意思の表明がない場合であっても、教職員は適切な機会を通じ、建設的対話を働きかける等、当該学生がニーズの申出をできるよう自主的な配慮に努める。</p> <p>5. 合意形成 支援内容の決定に当たっては、当該学生と十分な合意形成・共通理解を得て行う。 当該学生が単独で意思の表明が困難な場合には、大学は、当該学生や保証人が意向を表明できるよう支援し、その合意形成を図るようとする。</p> <p>6. 合理的配慮の提供 授業情報保障、コミュニケーション上の配慮、公平な試験、成績評価などにおける支援の方法については別途定める。ただし、合理的配慮ではなくても必要に応じて支援を行うことを妨げない。</p> <p>7. 支援体制 各学部・研究科及び学生生活支援機構総合支援センター等、学生生活に関わる全ての部課が支援を行う。支援の提供にあたっては、学長の下、学生生活支援機構総合支援センターが主体となり各学部・研究科等関係部課との密接な協働・連携体制をとる。</p> <p>8. 不服申し立て 支援方法等について当該学生から疑義や不服の申し立てがある場合は、別途定める手続きに基づいて行う。</p> <p>9. 施設・設備 障がいのある学生が、安全かつ円滑に学生生活を送れるようバリアフリー化に努める。</p> <p>10. 大学による研修 障がい学生支援に関する組織的な研修、教職員に対する研修(FD等)を実施する。</p> <p>11. 基本方針の周知徹底 学長は、本基本方針の目的を達成するために、全学に基本方針の周知徹底を行い、かつ必要な規程の整備・予算措置を講ずるよう努める。</p> <p>12. 改廃 この基本方針の改廃は、総合支援センター委員会の審議を経て、大学評議会において決定する。</p> <p><変更理由></p> <p>2016年春の障害者差別解消法の施行に合わせ、改めて障がい学生支援の姿勢を明らかにするべく、基本理念をもとに、基本方針を策定したため</p>

項目名	A-8 教員組織の編制方針
変更内容とその理由	<p><変更内容></p> <p>(変更前) 教員組織の編制方針については、学部・研究科がそれぞれ定めることとし、大学全体での方針は定めない。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(変更後) 関西学院は、建学の理念「キリスト教主義教育」に基づき“Mastery for Service”をスクールモットーに掲げ、超長期ビジョン・長期戦略からなる「Kwansei Grand Challenge 2039」を定めている。また、大学は学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針等のポリシーを明示しており、これらを具現化するために、本学の教員組織は、国際性や性別、年齢構成等のバランスに配慮しながら編制する。原則として専任教員は教授会の構成員となり、各教授会は教育課程および研究活動に対して責任を持つ。</p>
	<p><変更理由></p> <p>これまで大学全体としての方針を特に定めていなかったが、第三者評価による指摘をふまえ、新たな内容に変更。</p>

変更前

【関西学院大学(学士課程)】

Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー

世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。

関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦を続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通して身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多面的に評価することを基本的な方針としています。

Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー

神学部アドミッション・ポリシー

神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育成することを目標としています。
くわえて高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。

そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験によって高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

神学部に入学を望む者に期待することは、

1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている
2. キリスト教について幅広く関心をもっている
3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある
4. 日本語、英語について一定水準の能力がある
5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある

キリスト教伝道者コースに入学を許可される者は、

6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている
7. バプテスマ(洗礼)を受けた者である
8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある
9. 聖書、キリスト教について調べることができる

文学部アドミッション・ポリシー

文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広い客観的な視野と、先入観や画一的なものの方見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいける資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。

社会学部アドミッション・ポリシー

社会学部は、学士課程教育で培っていこうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いています。

【態度・関心】

- ① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基づいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。
- ② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心をもち、社会学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。

【知識・思考】

- ① 高等学校で学ぶ基本的な学科学目について、優れた学力水準にあること。社会学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史(日本史・世界史)、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。
- ② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語(国語)、数学についても、十分な能力を身につけていること。

【技能・表現】

- ① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験をもっていること。
 - ② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語(あるいは他の外国語)の基礎的な運用能力を身につけていること。
- 入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接等を探り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素(「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」)は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。

法学部アドミッション・ポリシー

法学部は、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、(1)科学的な思考方法の習得、(2)広範な知識と社会的視野の獲得、(3)正しい価値観と豊かな人間性の形成、(4)人権感覚の陶冶、(5)国際的・地球的な視野の確保という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。法学部は、こうした目的と目標に十分に応えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々な生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。

入学試験ではこうした方針に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

変更後

【関西学院大学(学士課程)】

世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。

関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦を続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通して身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多面的に評価することを基本的な方針としています。

Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー

神学部アドミッション・ポリシー

神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育成することを目標としています。
くわえて高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。

そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験によって高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

神学部に入学を望む者に期待することは、

1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている
2. キリスト教について幅広く関心をもっている
3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある
4. 日本語、英語について一定水準の能力がある
5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある

キリスト教伝道者コースに入学を許可される者は、

6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている
7. バプテスマ(洗礼)を受けた者である
8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある
9. 聖書、キリスト教について調べることができる

文学部アドミッション・ポリシー

文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育ならびに人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広い客観的な視野と、先入観や画一的なものの方見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいける資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。

社会学部アドミッション・ポリシー

社会学部は、学士課程教育で培っていこうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いています。

【態度・関心】

- ① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基づいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。
- ② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心をもち、社会学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。

【知識・思考】

- ① 高等学校で学ぶ基本的な学科学目について、優れた学力水準にあること。社会学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史(日本史・世界史)、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。
- ② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語(国語)、数学についても、十分な能力を身につけていること。

【技能・表現】

- ① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験をもっていること。
 - ② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語(あるいは他の外国語)の基礎的な運用能力を身につけていること。
- 入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接等を探り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素(「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」)は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。

法学部アドミッション・ポリシー

法学部は、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、(1)科学的な思考方法の習得、(2)広範な知識と社会的視野の獲得、(3)正しい価値観と豊かな人間性の形成、(4)人権感覚の陶冶、(5)国際的・地球的な視野の確保という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。法学部は、こうした目的と目標に十分に応えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々な生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。

入学試験ではこうした方針に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

変更前

経済学部アドミッション・ポリシー

わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいまでもありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。

本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考えられる人材を育てていきたいと考えています。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

商学部アドミッション・ポリシー

～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～

本学部の教育理念・目的は、「Mastery for Service(奉仕のための練達)」というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

人間福祉学部アドミッション・ポリシー

人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指す」。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力が理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解があること」が、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解があること」が、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があがるか、身体(スポーツ・健康)に関する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解があること」が求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

国際学部アドミッション・ポリシー

国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力と)人間性を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成します。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようにすることです。

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れます。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
2. 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
3. グローバル化する社会の中で他者の想いや異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

教育学部アドミッション・ポリシー

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」「教育力」「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場や広く社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践者を目指す者を受け入れたいと考えています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・実務者は子どものかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者のかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野において優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学部の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上の募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階まで身に付けた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において評価しています。

総合政策学部アドミッション・ポリシー

本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提として、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあひ学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもつ多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探索することが期待されます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

変更後

経済学部アドミッション・ポリシー

わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいまでもありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。

本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考えられる人材を育てていきたいと考えています。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

商学部アドミッション・ポリシー

～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する(Fostering Creative Minds for Business)～

本学部の教育理念・目的は、「Mastery for Service(奉仕のための練達)」というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

人間福祉学部アドミッション・ポリシー

人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指す」。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり(Compassion)」、「幅広い視野(Comprehensiveness)」、「高度な問題解決能力(Competence)」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力が理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解があること」が、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解があること」が、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ(スピリチュアリティ)に関する学問に関心があがるか、身体(スポーツ・健康)に関する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解があること」が求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

国際学部アドミッション・ポリシー

国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力と)人間性を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成します。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようにすることです。

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れます。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
2. 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
3. グローバル化する社会の中で他者の想いや異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

教育学部アドミッション・ポリシー

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」「教育力」「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような人材を受け入れます。

- 人間・社会に対する幅広い関心をもち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
- 高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
- 多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成長へと向かうことが期待できる者。
- 関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。

以上の募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階まで身に付けた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

総合政策学部アドミッション・ポリシー

本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提として、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあひ学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもつ多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探索することが期待されます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

変更前

理工学部アドミッション・ポリシー

自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、次のような学生を求めます。

<理工学部が求める学生像>

- ・自然科学・科学技術の発展を通じて、自立的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生
- ・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
- ・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
- ・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生
- ・以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜入学試験

一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な総合的な学力を持つ受験生を選抜するものです。一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定する。面接等を探り入れた各種入学試験は本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」を必須とし、「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。

理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語(学部個別日程のみ記述式含む)」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験開学独自方式日程は、英語・数学型、開学英語併用型、開学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。開学英語併用型・開学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加算科目を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリで実施する入学試験です。

① 国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す者のための入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関心興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてOEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模範国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国のプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

② 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関心興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(OEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模範国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

③ インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフレディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込みB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一校校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

④ グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象となります。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

変更後

理工学部アドミッション・ポリシー

自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、次のような学生の入学を期待します。

<理工学部が求める学生像>

- ・自然科学・科学技術の発展を通じて、自立的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生
- ・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
- ・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
- ・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生
- ・以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜入学試験

一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な総合的な学力を持つ受験生を選抜するものです。一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定する。面接等を探り入れた各種入学試験は本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」を必須とし、「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。

理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語(学部個別日程のみ記述式含む)」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験開学独自方式日程は、英語・数学型、開学英語併用型、開学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。開学英語併用型・開学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加算科目を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリで実施する入学試験です。

① 国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す者のための入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関心興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてOEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模範国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国のプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

② 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関心興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(OEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模範国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

③ インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフレディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込みB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一校校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

④ グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象となります。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

変更前

⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。筆記審査は「知識、数学、理科(物理・化学・生物のうち1科目選択)」を行います。これらの教科・科目における基本的な学力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問や、学ぶ意欲、人間性を評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価し選択を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

① 院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

④ 協定校推薦入学

1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立つて国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3) グローバル＋キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立つて国際社会に貢献できる人材として、そして高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づき推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

神学部

関西学院大学神学部において勉学することに強い意欲をもつ、成績優秀な生徒を推薦によって求め、総合大学の特色を生かし、豊かな人格を培い、幅広い一般語学の教養と深い神学的養とを身に付けさせ、社会に仕える者を育成することを目的とします。審査に際しては、志願提出書類と面接を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

文学部

関西学院大学文学部において勉学することに強い意欲をもつ個性ゆたかな生徒を、推薦によって入学を許可することによって入学後の修学への準備期間を確保し、入学後に文学部においてその才能をさらに伸ばすとともに、本学部独自の学風を振興し、広く社会に寄与し得る人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

社会学部

関西学院大学社会学部において勉学することに強い意欲をもつ成績優秀な生徒を、広く国内外から推薦によって求め、建学の精神に基づき将来性ある人材を育成することを目的とします。審査では、志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部で法律学・政治学を学ぶことに強い意欲をもち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、関西学院建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

経済学部

関西学院大学経済学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな活弁ある生徒を推薦入学させることによって、学生の多様化をはかり、学部諸活動の一層の活性化を推進して、本学建学の精神に基づき有能な人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

商学部

関西学院大学商学部において勉学することに強い意欲をもつ学力優秀で個性ゆたかな生徒を推薦によって求め、本学建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備え、真に創造的な能力を有し、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

変更後

⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。また、面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問により「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに学ぶ意欲、人間性を評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価し選択を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

① 院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

④ 協定校推薦入学

1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立つて国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3) グローバル＋キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立つて国際社会に貢献できる人材として、そして高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づき推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

神学部

関西学院大学神学部において勉学することに強い意欲をもつ、成績優秀な生徒を推薦によって求め、総合大学の特色を生かし、豊かな人格を培い、幅広い一般語学の教養と深い神学的養とを身に付けさせ、社会に仕える者を育成することを目的とします。審査に際しては、志願提出書類と面接を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

文学部

関西学院大学文学部において勉学することに強い意欲をもつ個性ゆたかな生徒を、推薦によって入学を許可することによって入学後の修学への準備期間を確保し、入学後に文学部においてその才能をさらに伸ばすとともに、本学部独自の学風を振興し、広く社会に寄与し得る人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

社会学部

関西学院大学社会学部において勉学することに強い意欲をもつ成績優秀な生徒を、広く国内外から推薦によって求め、建学の精神に基づき将来性ある人材を育成することを目的とします。審査では、志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部で法律学・政治学を学ぶことに強い意欲をもち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、関西学院建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備えた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

経済学部

関西学院大学経済学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな活弁ある生徒を推薦入学させることによって、学生の多様化をはかり、学部諸活動の一層の活性化を推進して、本学建学の精神に基づき有能な人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

商学部

関西学院大学商学部において勉学することに強い意欲をもつ学力優秀で個性ゆたかな生徒を推薦によって求め、本学建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備え、真に創造的な能力を有し、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

変更前

人間福祉学部

関西学院大学人間福祉学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性豊かな生徒を求め、本学の建学の精神に基づき、将来性ある人物を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

国際学部

関西学院大学国際学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな生徒を推薦入学させることによって、本学建学の精神および本学部の教育・研究上の理念である「国際性の涵養」に基づく世界市民と呼ぶにふさわしい国際性と人間性を備えた人材を育成することを目的とします。

審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学長の期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、入学者を選考します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を提出された書類および面接によって選考します。

総合政策学部

関西学院大学総合政策学部で学ぶことに強い意欲を持ち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、キリスト教主義に基づく教育という関西学院建学の精神を基盤として、社会に対する深い洞察を備え、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とする。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

理工学部

関西学院大学理工学部への入学を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では出願時提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑥ 指定校推薦編入学

人間福祉学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

教育学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

総合政策学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

理工学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール・教育連携対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高深さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクール、SGHアソシエイト校や本学が指定する課題研究に取り組む高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高深さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクール課題研究等を通じて高められた科学的能力と強い勉学意欲を有する生徒を本推薦入学試験によって求め、その能力を関西学院大学理工学部の教育によりさらに向上させ、将来国際的に活躍しうる科学技術系人材に育成することを目的としスーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において面接を中心にしながら工夫をこらした審査を行い、課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

変更後

人間福祉学部

関西学院大学人間福祉学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性豊かな生徒を求め、本学の建学の精神に基づき、将来性ある人物を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

国際学部

関西学院大学国際学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな生徒を推薦入学させることによって、本学建学の精神および本学部の教育・研究上の理念である「国際性の涵養」に基づく世界市民と呼ぶにふさわしい国際性と人間性を備えた人材を育成することを目的とします。

審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的なには、以下のような人材を受け入れます。

●人間・社会に対する幅広い関心を持ち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える覚悟を身につけようとする意欲をもつ者。

●高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。

●多様な価値観への理解・共感を持ち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。

●関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。

以上を募集方針の要素として、入学者を選考します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を提出された書類および面接によって選考します。

総合政策学部

関西学院大学総合政策学部で学ぶことに強い意欲を持ち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、キリスト教主義に基づく教育という関西学院建学の精神を基盤として、社会に対する深い洞察を備え、かつ国際感覚に優れた人材を育成することを目的とする。審査では志願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

理工学部

関西学院大学理工学部への入学を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では出願時提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

⑥ 指定校推薦編入学

人間福祉学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

教育学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

総合政策学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

理工学部指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高深さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクール、SGHアソシエイト校や本学が指定する課題研究に取り組む高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

2) スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高深さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクールにおいて、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

変更前	変更後
<p>3)理工学部 公募制推薦入学試験</p> <p>生命科学科・生命医化学科</p> <p>生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。</p> <p>審査においては、生命科学に関する小論文審査を行い、本学生命科学科・生命医化学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、生命科学科・生命医化学科で学ぶ意欲「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。</p>	<p>3)理工学部 公募制推薦入学試験</p> <p><u>物理学科</u></p> <p>物理学科では、<u>自由な発想と幅広い思考を武器に様々な問題に取り組みめる人材の育成を目指すにあたり、本入試において、物理学や天文学の体系的な知識・技能の習得とその活用の高い情熱を有する者を求めます。</u></p> <p><u>審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</u></p> <p>生命科学科</p> <p>生命科学の知識及び技術の習得に情熱を有し、関西学院大学理工学部に入学を希望する優秀な者を推薦制度によって迎え入れることにより、生命科学の発展に資することのできる創造性豊かな人材の育成に努めることを目的としています。</p>
<p>審査においては、生命科学に関する小論文審査を行い、本学生命科学科・生命医化学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、生命科学科・生命医化学科で学ぶ意欲「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。</p>	<p>審査においては、<u>小論文審査を行い、論理的な思考力と表現力の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに生命科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</u></p>
<p>人間システム工学科</p> <p>人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるユビキタス・ロボティクス技術に必要な学問を指向します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間とリアルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しい人と人工物のインタラクション、および人工物を介した人と人のインタラクションを創造できるような人材を育てます。</p> <p>このような趣旨のもとに本公募制推薦入試では従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を募集します。コンテンツ制作(映像・音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、フリーウェアやインタラクティブアート等を幅広く対象とする)やロボット等のハードウェアを伴うシステムの制作経験のある創造性豊かな学生を求めます。</p>	<p>人間システム工学科</p> <p>人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考えるユビキタス・ロボティクス技術に必要な学問を指向します。またデザインやインタラクションといった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間とリアルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を蓄えるだけでなく、新しい人と人工物のインタラクション、および人工物を介した人と人のインタラクションを創造できるような人材を育てます。</p> <p>このような趣旨のもとに本公募制推薦入試では従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を募集します。コンテンツ制作(映像・音楽作品、ゲーム、携帯アプリ、フリーウェアやインタラクティブアート等を幅広く対象とする)やロボット等のハードウェアを伴うシステムの制作経験のある創造性豊かな学生を求めます。</p>
<p>審査においては、作品審査を行い、本学人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断します。</p>	<p>審査においては、作品審査を行い、本学人間システム工学科の講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品審査の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。</p>
<p>5. AO入学試験</p> <p>関西学院大学のスクールモットーは「Mastery for Service(奉仕のための練達)」。これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。</p> <p>本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。</p> <p>AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。</p>	<p>5. AO入学試験</p> <p>関西学院大学のスクールモットーは「Mastery for Service(奉仕のための練達)」。これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。</p> <p>本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。</p> <p>AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。</p>
<p>神学部</p> <p>関西学院大学神学部は、1889年の関西学院創立と同時に設置された、最も古い伝統ある学部です。神学部はその設立時からキリスト教の伝道者育成を主要な目的として掲げています。1952年に新制大学の一学部として開設されてからも、学術的な質を高めつつ、高度な専門性を持つ伝道者・クリスチャンワーカーの育成に力を注いで来ました。</p> <p>世界の動向を視野に入れ、21世紀における日本と世界のキリスト教宣教を担うためには、将来の伝道者・クリスチャンワーカーがしっかりとキリスト教に関する専門的な知識を身につけるとともに、社会の諸現象への深い洞察力を持ち、他の諸分野と学問的な対話をする力を養う必要があります。</p> <p>本学部では、このような趣旨に基づき、従来の学力審査では十分に表現できなかった多様な能力を評価するためAO入試を行います。このAO入試では、自分自身の考えを表現し、対話する能力を評価するとともに、キリスト教信仰に根ざして伝道者・クリスチャンワーカーとなろうとする志、社会での経験や異文化との出会い、自分らしい思考や資格を重んじています。高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて、広く志願者を募っています。</p> <p>入学選抜に際しては上述の趣旨にのっとり総合的に判断しますが、提出された書類・調査書によっておもにキリスト教理解を中心とした「知識・技能」と志望動機とを評価し、面接審査によっておもに「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を評価します。</p>	<p>神学部</p> <p>関西学院大学神学部は、1889年の関西学院創立と同時に設置された、最も古い伝統ある学部です。神学部はその設立時からキリスト教の伝道者育成を主要な目的として掲げています。1952年に新制大学の一学部として開設されてからも、学術的な質を高めつつ、高度な専門性を持つ伝道者・クリスチャンワーカーの育成に力を注いで来ました。</p> <p>世界の動向を視野に入れ、21世紀における日本と世界のキリスト教宣教を担うためには、将来の伝道者・クリスチャンワーカーがしっかりとキリスト教に関する専門的な知識を身につけるとともに、社会の諸現象への深い洞察力を持ち、他の諸分野と学問的な対話をする力を養う必要があります。</p> <p>本学部では、このような趣旨に基づき、従来の学力審査では十分に表現できなかった多様な能力を評価するためAO入試を行います。このAO入試では、自分自身の考えを表現し、対話する能力を評価するとともに、キリスト教信仰に根ざして伝道者・クリスチャンワーカーとなろうとする志、社会での経験や異文化との出会い、自分らしい思考や資格を重んじています。高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて、広く志願者を募っています。</p> <p>入学選抜に際しては上述の趣旨にのっとり総合的に判断しますが、提出された書類・調査書によっておもにキリスト教理解を中心とした「知識・技能」と志望動機とを評価し、面接審査によっておもに「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を評価します。</p>
<p>文学部</p> <p>関西学院大学文学部は、本学のスクールモットーであるMastery for Service(奉仕のための練達)の精神を踏まえ、人間の本质を追究するために深い学識と広い視野を養う学びの場です。文化や歴史、心理、文学や言語の教育研究を通じて、人間存在の営みの本質や現代的・普遍的な課題を追究します。</p>	<p>文学部</p> <p>関西学院大学文学部は、本学のスクールモットーであるMastery for Service(奉仕のための練達)の精神を踏まえ、人間の本质を追究するために深い学識と広い視野を養う学びの場です。文化や歴史、心理、文学や言語の教育研究を通じて、人間存在の営みの本質や現代的・普遍的な課題を追究します。</p>
<p>本学部では、このような考えに基づいて、AO入試を実施します。この入学試験は、従来の一般学力試験では判断することができない多様な能力を積極的に評価し、文化・芸術活動や語学能力で顕著な実績を持つ人で、意欲あふれる人を求めます。また、グローバルな視野を持った帰国生徒や豊かな社会経験を勉学・研究に活かそうとする人を求めます。</p>	<p>本学部では、このような考えに基づいて、AO入試を実施します。この入学試験は、従来の一般学力試験では判断することができない多様な能力を積極的に評価し、文化・芸術活動や語学能力で顕著な実績を持つ人で、意欲あふれる人を求めます。<u>また、豊かな社会経験を勉学・研究に活かそうとする人を求めます。</u></p>
<p>審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。</p>	<p>審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。</p>

変更前

社会学部

関西学院大学社会学部は、知的好奇心と探究心にあふれ、幅広い視野・知識と柔軟な思考力を持ち、さらにそれに基づいた強い意志と行動力をもつ人材の育成をめざしています。問題意識を持ち、幅広く学び、自分の頭で考え、自分の体で調べ、自信をもって行動することのできる人間こそ、現代社会のそれぞれの現場で、さまざまな問題を発見し、そして解決していくことのできる人間だと考えるからです。また、そうした一つ一つの積み重ねによってこそ、よりよい社会が実現できると考えるからです。

本学部では、このような趣旨に基づいて、従来の一般学力試験では十分に発揮できなかった多様な能力を積極的に評価するために、AO入試を実施します。この入学試験は、大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を前提としたうえで、スポーツ活動、文化、芸術活動、社会貢献活動(ボランティア活動など)の分野において、優れた活動を体験し、しかもその経験から得たものを大学での勉学と自己陶冶に活かして、本学部がめざす柔軟な思考力と積極的な行動力をもった人間に成長する可能性のある者を、積極的に迎え入れようとするものです。

したがってAO入試に応募する皆さんに問うのは、単なる活動の実績ではありません。皆さんがそれぞれの活動の経験から何を学得、どれだけ成長したのか、そしてそれらの成果を本学部での勉学と自己陶冶の基礎としつつ、さらに大きく飛躍する意欲をどれだけ持っているか、まさにこの点を問うのです。

審査は、書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては、提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から、「態度・関心」「技能・表現」を中心に評価します。筆記審査においては、日本語資料および英語資料による読解・論述審査を行い、「知識・思考」「技能・表現」を中心に評価します。さらに面接審査においては、「態度・関心」「技能・表現」を中心に、総合的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部は、本学のスクールモットーであるMastery for Serviceの理念のもと、ソーシャル・アプローチという教育方針にもとづき、法学・政治学を多面的に考察することによって、幅広い社会現象を深く洞察できる力を養うとともに、明確な目的意識を持って社会に奉仕する精神を持った人材の育成をめざしています。また、国際化、高度化する現代社会においては、様々な分野において、豊かな人間性や高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材が求められており、このような素養を有する者を受け入れたいと考えています。

したがって、法学部では、大学での教育に必要な基礎的学力を有していることを前提に、一般入学試験では判断することが難しい様々な能力や社会奉仕精神を含む豊かな人間性、優れたコミュニケーション能力、またはリーダーシップを持ち、目的意識の高い学生を募集します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

経済学部

関西学院大学経済学部は、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てることを目的としています。

大学教育の場を活気と創造性に満ちたものにするためには、個性ゆたかで活力ある学生を受け入れることで、学生たちの間に生き生きとした状況を作り出し、さらには大学教育そのものを活性化すると考えています。経済学部が求めるのは、学問を通じて発揮される活力です。このような活力は、単に勉学においてだけでなく、生活全般にわたる人間としての働きのみかで培われるものです。そこで、高校時代の勉学のほか、学校内外での様々な活動に積極的に取り組んだ経験を通じて培われた能力や人間性、社会人としての経験などを出願資格とし、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。また、二次審査の面接審査では二つの方式を設けています。自己推薦型ではプレゼンテーションにより表現力・主体性などを評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。数学能力重視型では、数学に関する口頭試問を行い数理的能力について評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。

商学部

関西学院大学商学部の教育は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”の精神を踏まえ、真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成(Fostering Creative Minds for Business)を目的としています。このような教育理念と目的を具現化するために、現代社会の中での企業などの果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理技法、これら政策や管理技法の与える影響、企業などの社会的責任・倫理的重要性などを体系的に教育してきました。

激動の現代社会において、このような教育理念を実現し、本学の教育目的をより一層効果的に達成するためには、様々な経験や活動を通して豊かな人間性を身につけ、本学の建学の精神を理解し、商学部で学びたいという強い意志を持っている者を日本全国から商学部へ迎え入れることが必要です。そこで、従来の学力審査では十分にとらえることができなかった多彩な能力を認識し、当該能力を多面的に評価するために、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

変更後

社会学部

関西学院大学社会学部は、知的好奇心と探究心にあふれ、幅広い視野・知識と柔軟な思考力を持ち、さらにそれに基づいた強い意志と行動力をもつ人材の育成をめざしています。問題意識を持ち、幅広く学び、自分の頭で考え、自分の体で調べ、自信をもって行動することのできる人間こそ、現代社会のそれぞれの現場で、さまざまな問題を発見し、そして解決していくことのできる人間だと考えるからです。また、そうした一つ一つの積み重ねによってこそ、よりよい社会が実現できると考えるからです。

本学部では、このような趣旨に基づいて、従来の一般学力試験では十分に発揮できなかった多様な能力を積極的に評価するために、AO入試を実施します。この入学試験は、大学教育を受けるにふさわしい基礎学力を前提としたうえで、スポーツ活動、文化、芸術活動、社会貢献活動(ボランティア活動など)の分野において、優れた活動を体験し、しかもその経験から得たものを大学での勉学と自己陶冶に活かして、本学部がめざす柔軟な思考力と積極的な行動力をもった人間に成長する可能性のある者を、積極的に迎え入れようとするものです。

したがってAO入試に応募する皆さんに問うのは、単なる活動の実績ではありません。皆さんがそれぞれの活動の経験から何を学得、どれだけ成長したのか、そしてそれらの成果を本学部での勉学と自己陶冶の基礎としつつ、さらに大きく飛躍する意欲をどれだけ持っているか、まさにこの点を問うのです。

審査は、書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては、提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から、「態度・関心」「技能・表現」を中心に評価します。筆記審査においては、日本語資料および英語資料による読解・論述審査を行い、「知識・思考」「技能・表現」を中心に評価します。さらに面接審査においては、「態度・関心」「技能・表現」を中心に、総合的に評価します。

法学部

関西学院大学法学部は、本学のスクールモットーであるMastery for Serviceの理念のもと、ソーシャル・アプローチという教育方針にもとづき、法学・政治学を多面的に考察することによって、幅広い社会現象を深く洞察できる力を養うとともに、明確な目的意識を持って社会に奉仕する精神を持った人材の育成をめざしています。また、国際化、高度化する現代社会においては、様々な分野において、豊かな人間性や高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる人材が求められており、このような素養を有する者を受け入れたいと考えています。

したがって、法学部では、大学での教育に必要な基礎的学力を有していることを前提に、一般入学試験では判断することが難しい様々な能力や社会奉仕精神を含む豊かな人間性、優れたコミュニケーション能力、またはリーダーシップを持ち、目的意識の高い学生を募集します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

経済学部

関西学院大学経済学部は、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てることを目的としています。

大学教育の場を活気と創造性に満ちたものにするためには、個性ゆたかで活力ある学生を受け入れることで、学生たちの間に生き生きとした状況を作り出し、さらには大学教育そのものを活性化すると考えています。経済学部が求めるのは、学問を通じて発揮される活力です。このような活力は、単に勉学においてだけでなく、生活全般にわたる人間としての働きのみかで培われるものです。そこで、高校時代の勉学のほか、学校内外での様々な活動に積極的に取り組んだ経験を通じて培われた能力や人間性、社会人としての経験などを出願資格とし、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。また、二次審査の面接審査では二つの方式を設けています。自己推薦型ではプレゼンテーションにより表現力・主体性などを評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。数学能力重視型では、数学に関する口頭試問を行い数理的能力について評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。

商学部

関西学院大学商学部の教育は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”の精神を踏まえ、真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成(Fostering Creative Minds for Business)を目的としています。このような教育理念と目的を具現化するために、現代社会の中での企業などの果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理技法、これら政策や管理技法の与える影響、企業などの社会的責任・倫理的重要性などを体系的に教育してきました。

激動の現代社会において、このような教育理念を実現し、本学の教育目的をより一層効果的に達成するためには、様々な経験や活動を通して豊かな人間性を身につけ、本学の建学の精神を理解し、商学部で学びたいという強い意志を持っている者を日本全国から商学部へ迎え入れることが必要です。そこで、従来の学力審査では十分にとらえることができなかった多彩な能力を認識し、当該能力を多面的に評価するために、AO入試を実施します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

変更前

人間福祉学部

人間福祉学部は、関西学院大学のなかで伝統のある「福祉」の分野をさらに進化させ、「人間そのもの」そして「その生活環境としての社会」について理解を深め、よりよい社会の実現をめざして学ぶ学際的分野をテーマとする実学志向の学部です。

社会福祉学科では、社会的支援の必要な人の自立や自己実現の援助、福祉に関する政策や現実を学び、未来の福祉を担うソーシャルワーカーとしてリーダーシップを発揮できる人材、社会起業学科では、国際的な視点とコミュニケーション能力を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力と知識を身につけ、社会起業とともに企業、自治体、NPO・NGO、国際機関などで社会のあり方を提案できる人材、人間科学科では、人間を「こころ(スピリチュアリティ)」と「身体」の両面からとらえ、「こころ」や「身体」を病む人や悲しみの中にある人に寄り添い、人々のQOL(いのちの質・生活の質)を支える人材を育成します。

AO入試では、基礎的な学力に加えて、社会貢献活動、文化・芸術活動の実績、体験・経験、創造力、能力・資格、リーダーシップなどで特色を持つ者、豊かな人間性と学ぶ意欲を持つ者を積極的に受け入れます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

国際学部
関西学院大学国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するため、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」(備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようにすることです。

本学部では、このような教育・研究上の理念・目的に基づいて、AO入学試験を実施します。この入学試験では、本学部に強い関心と学習意欲を持ち、文化・芸術活動に関して秀でた体験や経験を有する人、社会人を対象として、従来の一般学力試験では判断することができない多様な経験、活動を通じて身につけた豊かな人間性、将来性、可能性、能力を多面的に、積極的に評価します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心と深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どものかかわりや保護者のかかわりも密です。それら他者のかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後の学部の伸張できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、多様な能力を評価するAO入試を実施します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を書類審査、筆記試験(英語論述審査・課題小論文審査)、グループディスカッション等および、個人面接を行い、総合的に評価します。

総合政策学部

現代社会は、環境破壊や資源・人口問題、国際紛争など多くの深刻な問題をかかえており、各国政府や国際機関、非政府組織、民間団体などさまざまな組織や団体が、問題の解決をめざしています。関西学院大学総合政策学部では、「Think globally. Act locally.」(地球規模で考え、足元から行動せよ)をモットーに、こうした地球規模の問題に対して、いかにして適切な政策を打ち出せるかを幅広い学問領域を結集させ、総合的に追求しています。

総合政策学部が求めている学生像は、現実世界の問題に対してしっかりと問題意識をもち、解決に向けて情熱を持って取り組むことで、人々がより幸福に暮らすことのできる社会の実現に貢献しようとする学生です。総合政策学部では、このような学生は少なくとも次のような能力を備えていなければならないと考えています。1つ目は、現実世界の問題を解決したいという志と情熱を持っていることです。2つ目は、複雑に入り組んだ現実世界の問題を解きほぐし、そのなかから具体的な課題を発見し、抽出するための想像力と論理的な思考力です。3つ目は、自らの考えや意見、政策提案を的確に表現し、伝達するための発信型のコミュニケーション能力です。

総合政策学部では、第1次審査として読解・論述審査を行います。第1次審査では、記憶力や単なる知識だけでは測れない読解力、思考力、論理力、表現力などを多面的に評価します。第2次審査では面接試験によって皆さんの情熱や想像力、論理的な思考力を審査し、提出された書類と合わせて、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

理工学部

関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎をしっかり学び、それらを活用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、人間の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深いある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象にAO入試を実施します。豊かな自然の中にある神戸三田キャンパスに、最新鋭の研究装置・設備を備えた理工学部で、自然科学の真実の探究に挑戦してみませんか。そんな意欲のある若者たちが多数受験してくることを願っています。

<数理科学科>

数学は人間の持つ論証能力を用いて、数や図形の性質を探究、自然現象と社会現象の記述などを対象とする学問です。従来は、具体的な事例から抽象されたモデルやその性質を調べる抽象的側面が強調されたこともありますが、現在では、高度に発達した数学を自然現象と社会現象に適用して理解を深め、科学技術の発展や人間活動に貢献するという方向が顕著になってきています。

2009年度より新設された数理科学科は物理学科数学専攻を発展拡充したもので、従来の数学と応用にも範囲を広げた応用数理の2つのコースがあります。ただし、コース分けは4年生からで、それまでは大学数学の基礎知識の修得とその応用能力の向上に努めます。数学の応用に当って必須のコンピュータ運用能力の向上を計ることもその一環です。

数理科学科では、AO入試において、高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて広く、「自由な発想」ができて「確かな思考力」を備えた、優秀な学生を求めます。

審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学数理科学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

<物理科学科>

電子機器をはじめ、私達の身の回りで物理学の知見を利用しないものは少ないでしょう。この事実も、物理学の特徴をよく表しています。

物理学は、様々な現象に共通する少数の機構や原理を見出し、それらによって多くの現象を理解しようとする。こうして得られた重要な原理は、理解したかった現象のみならず、より広い現象にも適用できることがあります。この、個々の対象にとらわれない物理学の考え方や方法が、単なる技術改良に留まらず、今までに存在しなかった新しい技術の創生を導いてきました。

物理学をしっか学び、その知識と応用力が得られますが、何よりも、その学びの過程で、現状を論理的に分析して課題を発見し、対応を考える能力が鍛えられます。よって、物理学を学ぶようとする者は、まず、データに基づきながら物事を幅広くとらえ、粘り強く考えようとする強い意欲が必要です。そして、現代社会は、このような能力・意欲をもつ人材を求めています。

物理学科では、AO入試により、基礎学力をともに暗記にたよらない自由な発想と幅広い思考のできる、意欲をもつ者を求めます。そして、物理学科で進められている、宇宙物理、物性実験、理論物理などの研究活動を通じて、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

審査においては、物理学に関する小論文審査を行い、本学物理学科の講義・演習を理解するために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

変更後

人間福祉学部

人間福祉学部は、関西学院大学のなかで伝統のある「福祉」の分野をさらに進化させ、「人間そのもの」そして「その生活環境としての社会」について理解を深め、よりよい社会の実現をめざして学ぶ学際的分野をテーマとする実学志向の学部です。

社会福祉学科では、社会的支援の必要な人の自立や自己実現の援助、福祉に関する政策や現実を学び、未来の福祉を担うソーシャルワーカーとしてリーダーシップを発揮できる人材、社会起業学科では、国際的な視点とコミュニケーション能力を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力と知識を身につけ、社会起業とともに企業、自治体、NPO・NGO、国際機関などで社会のあり方を提案できる人材、人間科学科では、人間を「こころ(スピリチュアリティ)」と「身体」の両面からとらえ、「こころ」や「身体」を病む人や悲しみの中にある人に寄り添い、人々のQOL(いのちの質・生活の質)を支える人材を育成します。

AO入試では、基礎的な学力に加えて、社会貢献活動、文化・芸術活動の実績、体験・経験、創造力、能力・資格、リーダーシップなどで特色を持つ者、豊かな人間性と学ぶ意欲を持つ者を積極的に受け入れます。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

国際学部
関西学院大学国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するため、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」(世界理解、国際理解のための能力)と「人間性」(備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度(特に人文・社会科学の観点)から理解し、分析できるようにすることです。

本学部では、このような教育・研究上の理念・目的に基づいて、AO入学試験を実施します。この入学試験では、本学部に強い関心と学習意欲を持ち、文化・芸術活動に関して秀でた体験や経験を有する人、社会人を対象として、従来の一般学力試験では判断することができない多様な経験、活動を通じて身につけた豊かな人間性、将来性、可能性、能力を多面的に、積極的に評価します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のようない人材を受け入れます。

- 人間・社会に対する幅広い関心を持ち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
- 高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
- 多様な価値観への理解・共感を持ち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。
- 関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。

以上を募集方針の要素として、多様な能力を評価するAO入試を実施します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を書類審査、筆記試験(英語論述審査・課題小論文審査)、グループディスカッション等および、個人面接を行い、総合的に評価します。

総合政策学部

現代社会は、環境破壊や資源・人口問題、国際紛争など多くの深刻な問題をかかえており、各国政府や国際機関、非政府組織、民間団体などさまざまな組織や団体が、問題の解決をめざしています。関西学院大学総合政策学部では、「Think globally. Act locally.」(地球規模で考え、足元から行動せよ)をモットーに、こうした地球規模の問題に対して、いかにして適切な政策を打ち出せるかを幅広い学問領域を結集させ、総合的に追求しています。

総合政策学部が求めている学生像は、現実世界の問題に対してしっかりと問題意識をもち、解決に向けて情熱を持って取り組むことで、人々がより幸福に暮らすことのできる社会の実現に貢献しようとする学生です。総合政策学部では、このような学生は少なくとも次のような能力を備えていなければならないと考えています。1つ目は、現実世界の問題を解決したいという志と情熱を持っていることです。2つ目は、複雑に入り組んだ現実世界の問題を解きほぐし、そのなかから具体的な課題を発見し、抽出するための想像力と論理的な思考力です。3つ目は、自らの考えや意見、政策提案を的確に表現し、伝達するための発信型のコミュニケーション能力です。

総合政策学部では、第1次審査として読解・論述審査を行います。第1次審査では、記憶力や単なる知識だけでは測れない読解力、思考力、論理力、表現力などを多面的に評価します。第2次審査では面接試験によって皆さんの情熱や想像力、論理的な思考力を審査し、提出された書類と合わせて、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

理工学部

関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎をしっかり学び、それらを活用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、人間の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深いある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象にAO入試を実施します。豊かな自然の中にある神戸三田キャンパスに、最新鋭の研究装置・設備を備えた理工学部で、自然科学の真実の探究に挑戦してみませんか。そんな意欲のある若者たちが多数受験してくることを願っています。

<数理科学科>

数学は人間の持つ論証能力を用いて、数や図形の性質の探究、自然現象と社会現象の記述などを対象とする学問です。従来は、具体的な事例から抽象されたモデルやその性質を調べる抽象的側面が強調されたこともありますが、現在では、高度に発達した数学を自然現象と社会現象に適用して理解を深め、科学技術の発展や人間活動に貢献するという方向が顕著になってきています。

2009年度より新設された数理科学科は物理学科数学専攻を発展拡充したもので、従来の数学と応用にも範囲を広げた応用数理の2つのコースがあります。ただし、コース分けは4年生からで、それまでは大学数学の基礎知識の修得とその応用能力の向上に努めます。数学の応用に当って必須のコンピュータ運用能力の向上を計ることもその一環です。

数理科学科では、AO入試において、高校生、社会人や帰国生徒などの枠を超えて広く、「自由な発想」ができて「確かな思考力」を備えた、優秀な学生を求めます。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに数理科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し、選抜を行います。

<物理科学科>

電子機器をはじめ、私達の身の回りで物理学の知見を利用しないものは少ないでしょう。この事実も、物理学の特徴をよく表しています。

物理学は、様々な現象に共通する少数の機構や原理を見出し、それらによって多くの現象を理解しようとする。こうして得られた重要な原理は、理解したかった現象のみならず、より広い現象にも適用できることがあります。この、個々の対象にとらわれない物理学の考え方や方法が、単なる技術改良に留まらず、今までに存在しなかった新しい技術の創生を導いてきました。

物理学をしっか学び、その知識と応用力が得られますが、何よりも、その学びの過程で、現状を論理的に分析して課題を発見し、対応を考える能力が鍛えられます。よって、物理学を学ぶようとする者は、まず、データに基づきながら物事を幅広くとらえ、粘り強く考えようとする強い意欲が必要です。そして、現代社会は、このような能力・意欲をもつ人材を求めています。

物理学科では、AO入試により、基礎学力をともに暗記にたよらない自由な発想と幅広い思考のできる、意欲をもつ者を求めます。そして、物理学科で進められている、宇宙物理、物性実験、理論物理などの研究活動を通じて、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに物理学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し、選抜を行います。

変更前

<先進エネルギーナノ工学科>

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するためには、新たなエネルギー技術の開発が不可欠であります。そのためには、従来の技術の枠組みに捉われない、学際的な新たな取り組みが必要です。

先進エネルギーナノ工学科は、ナノテクノロジーをベースとした新しいエネルギー科学・工学の教育研究を通して、上記課題の解決にチャレンジします。本学科では、エネルギーを創る、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、「ものづくり」をキーワードに、基礎から応用までの体系的な教育研究を行うことにより、今後のグリーンイノベーションの核となる技術と人材の創出を目指しています。

本学科の卒業生は、電子・電気、素材、通信、自動車、重化学工業、エネルギーなどの産業や、エネルギー政策に携わる行政などの分野での活躍が期待されます。本学科で培った基礎力・応用力・柔軟な思考力を駆使して、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことができる人材として活躍します。

このような趣旨のもと、先進エネルギーナノ工学科ではAO入試によって、持続可能な社会を実現するための新しいエネルギー科学・工学に強い興味をもち、主体的な学びを通して成長しようとする意欲的な学生を募ります。

審査においては、数学に関する小論文審査を行い、本学先進エネルギーナノ工学科の講義・演習を理解するために必要な学力【知識・技能】「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・小論文審査の結果と合わせて総合的に判断します。

<情報科学科>

情報技術は社会のニーズの多様化に応えながら、日進月歩の発展を遂げるとともに、インターネットやスマートフォンなどの通信技術と連動することで、われわれの社会に深く浸透しています。

情報科学科では、次世代の情報通信を支える先進的な技術を開発できる人材を育成するため、情報システムとネットワークシステムに関する教育と研究に取り組んでいます。さらに、情報通信技術を基盤とした新しい産業や生活スタイルの創造を目指しています。このため、基礎的な理論を十分に学んだ上で、実践的なプログラミングや応用技術を駆使できる潜在力を秘めた、意欲と知的好奇心に富んだ学生に是非入学して欲しいと考えています。

このような趣旨のもと、情報科学科ではAO入試によって、学力試験のみではとらえきれない能力を持ち、情報通信技術およびそれを活かした分野で活躍する可能性を秘めた学生を広く募ります。プログラム制作(CやJavaなどによるプログラム、スマートフォン用アプリ)、ホームページ、ゲーム等)、情報処理やインターネットに関連したプロジェクト(文化祭などの情報機器を使った展示、クラブのホームページ作成、情報機器を使ったボランティア活動等)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力【知識・技能】「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

<人間システム工学科>

ユーザー好みや感性に合わせた製品の開発など、人間を中心としたものづくりが産業における主要な課題となっており、改めて人とコンピュータシステムとの関わりが注目されています。

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考るロボティクス技術やユビキタス技術の研究分野を強化します。また「デザインやインタラクション」といった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間とデジタルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を養えるだけでなく、新しいヒューマンシステムインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもと、本学科ではAO入試によって、従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を広く募ります。コンテンツ制作(映像作品、音楽作品、ゲーム、携帯アプリ)、アート等幅広く対象とする)やロボットの制作、またはこれらに関連したプロジェクト(文化祭や卒業式での映像を用いたイベントなど)の経験のある創造性豊かな学生を求めます。体系に限定せず、人間の心理的な特性や感性に興味を持つ意欲のある学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な学力【知識・技能】「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価を行い、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断します。

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しなから、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性を評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉学してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身に付け、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所の推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

文学部特別選抜入学試験(スポーツ活動)

さまざまな優れた能力をもつ者に文学部で学ぶ機会を与えるという観点から、高等学校においてスポーツ活動で優れた能力と競技実績をもち、大学教育を受けるに必要な基礎学力を有する者を選抜し、本学において、スポーツによって培われた個性を伸ばし、広く社会に寄与しようとする人間を育成することを目的とします。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学部で学ぶにあたっての基礎的・基本的な「知識・技能」と、「思考力・判断力・表現力」を小論文によって評価します。また面接審査において「主体性・多様性・協働性」を評価します。

変更後

<先進エネルギーナノ工学科>

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するためには、新たなエネルギー技術の開発が不可欠であります。そのためには、従来の技術の枠組みに捉われない、学際的な新たな取り組みが必要です。

先進エネルギーナノ工学科は、ナノテクノロジーをベースとした新しいエネルギー科学・工学の教育研究を通して、上記課題の解決にチャレンジします。本学科では、エネルギーを創る、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、「ものづくり」をキーワードに、基礎から応用までの体系的な教育研究を行うことにより、今後のグリーンイノベーションの核となる技術と人材の創出を目指しています。

本学科の卒業生は、電子・電気、素材、通信、自動車、重化学工業、エネルギーなどの産業や、エネルギー政策に携わる行政などの分野での活躍が期待されます。本学科で培った基礎力・応用力・柔軟な思考力を駆使して、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことができる人材として活躍します。

このような趣旨のもと、先進エネルギーナノ工学科ではAO入試によって、持続可能な社会を実現するための新しいエネルギー科学・工学に強い興味をもち、主体的な学びを通して成長しようとする意欲的な学生を募ります。

審査においては、面接審査(口頭試問)を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに先進エネルギーナノ工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類の結果と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

<情報科学科>

情報技術は社会のニーズの多様化に応えながら、日進月歩の発展を遂げるとともに、インターネットやスマートフォンなどの通信技術と連動することで、われわれの社会に深く浸透しています。

情報科学科では、次世代の情報通信を支える先進的な技術を開発できる人材を育成するため、情報システムとネットワークシステムに関する教育と研究に取り組んでいます。さらに、情報通信技術を基盤とした新しい産業や生活スタイルの創造を目指しています。このため、基礎的な理論を十分に学んだ上で、実践的なプログラミングや応用技術を駆使できる潜在力を秘めた、意欲と知的好奇心に富んだ学生に是非入学して欲しいと考えています。

このような趣旨のもと、情報科学科ではAO入試によって、学力試験のみではとらえきれない能力を持ち、情報通信技術およびそれを活かした分野で活躍する可能性を秘めた学生を広く募ります。プログラム制作(CやJavaなどによるプログラム、スマートフォン用アプリ)、ホームページ、ゲーム等)、情報処理やインターネットに関連したプロジェクト(文化祭などの情報機器を使った展示、クラブのホームページ作成、情報機器を使ったボランティア活動等)の経験のある創造力豊かな学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学情報科学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、情報科学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

<人間システム工学科>

ユーザー好みや感性に合わせた製品の開発など、人間を中心としたものづくりが産業における主要な課題となっており、改めて人とコンピュータシステムとの関わりが注目されています。

人間システム工学科では、感性豊かな映像や音楽を実現するメディア技術、あるいは人間と実空間・環境との関わりを考るロボティクス技術やユビキタス技術の研究分野を強化します。また「デザインやインタラクション」といった先端学際領域(様々な技術分野を統合して解決する学問分野)の観点から人間とデジタルシステムとしてとらえた教育と研究を行います。人間の特性や感性をよりよく理解し、社会のニーズに対応できる実力を養えるだけでなく、新しいヒューマンシステムインタラクションを創造できるような人材を育てます。

このような趣旨のもと、本学科ではAO入試によって、従来の学力試験ではとらえきれない能力を持ち、可能性を秘めた学生を広く募ります。コンテンツ制作(映像作品、音楽作品、ゲーム、携帯アプリ)、アート等幅広く対象とする)やロボットの制作、またはこれらに関連したプロジェクト(文化祭や卒業式での映像を用いたイベントなど)の経験のある創造性豊かな学生を求めます。体系に限定せず、人間の心理的な特性や感性に興味を持つ意欲のある学生を求めます。

審査においては、提出された「作品資料」について審査を行い、本学人間システム工学科の目指す学問についての関心の深さ、意欲やセンスを評価するとともに、講義・演習を理解するために必要な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の有無を判定します。また面接審査(口頭試問)を行い、人間システム工学科で学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類・作品資料の評価と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しなから、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性を評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉学してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身に付け、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所の推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

文学部特別選抜入学試験(スポーツ活動)

さまざまな優れた能力をもつ者に文学部で学ぶ機会を与えるという観点から、高等学校においてスポーツ活動で優れた能力と競技実績をもち、大学教育を受けるに必要な基礎学力を有する者を選抜し、本学において、スポーツによって培われた個性を伸ばし、広く社会に寄与しようとする人間を育成することを目的とします。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学部で学ぶにあたっての基礎的・基本的な「知識・技能」と、「思考力・判断力・表現力」を小論文によって評価します。また面接審査において「主体性・多様性・協働性」を評価します。

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞

～検証状況の確認～

＜評価専門委員会・第三者評価結果＞ 2017年12月15日公示

・ 全体的印象と課題

目標1から目標5までは、着実に努力が重ねられており、順調に進めば、かなりの成果が上げられるものと期待します。特に、スクールモットーをより具体化するためのDP・CP・APの明確化は、全ての学生に対する質の保証を行う上で重要であると思います。今後は、一連の教育活動が確実に質の保証と繋がることをエビデンスをもとに自己証明することが必要となってきます。研究支援は投資すれば直ぐその成果が上がるわけではありませんが、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に更に努力されることを期待しています。キャンパスのグローバル化や総合的な学生支援は、綿密な計画に沿って着実にその成果が上がっています。また、貴学のスクールモットーと多様化する受験生に対応させることに意を払った高大連携の推進は、貴学の将来を確かなものにするためにも重要であると思います。一方で、目標6の大学院についての取組は満足できる状況にはありません。現況を直視した上で、組織改組をも含めた思い切った改革・改善が必要であると考えます。アシスト目標である機構・センターの機能は、関連部局間の調整機能のみならず、全学的視点から教育研究の活性化を推進させるという役割があります。そのことを念頭においた活動が積極的に展開されることを期待しています。以下、特に注目すべき事項と解決すべき課題について、若干の意見を述べておきます。

・ (1)DP・CP・APの連動性について

本年度の帳票で大きく変更されているのは、ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、アドミッション・ポリシーが、学部レベルにおいても明確に示されている点です。DPに関しては、スクールモットーであるMastery for Serviceを体現する世界市民の育成を実現するためのグローバル人材の要件として、卒業時において身につけておくべき4つの知識・能力を掲げており、この点に関しては、大いに評価できます。

CPについては、全学的な教育課程の編成・実施方針として「ダブルチャレンジ制度」が既に公表されていますが、主専攻はともかくとして、副専攻等の位置づけが必ずしも明確ではありません。「異なるものとの出会い」を尊重する姿勢は理解できますが、そこで取得した単位は卒業要件に含まれるのか、何単位程度の取得を求めているのか、このプログラムの編成主体は学部なのか、あるいは共通教育センター等の別組織なのか、今後、全ての学生に履修を義務づける予定なのかなど、帳票の記載内容からは、この制度の教育システムとしての位置づけが必ずしも明確ではありません。

一方で、各学部ごとのDP・CP・APの連動性は、APの記載内容の変更によって、内容的にも分かりやすくなっています。学部間に差があるとはいえ、受け入れ後の教育課程と接続した学生の受け入れ方針を明確にしておき、教育活動の質を責任を持って保証しようとする各学部の姿勢が感じられます。ただし、大学院に関しては、大学院の充実を謳いながら、依然として一般的な記述に留まっているケースが多く、大学院が独立した教育課程あることの理解が十分浸透していない印象を持ちます。学士課程と大学院課程の相対的な役割分化が進むなかで、大学院でも学部と同様、DP・CP・APの明確化が強く求められます。

・ (2)グローバル化に対応した入試制度について

今回の帳票で注目したことは、グローバル人材の育成を学生受け入れの段階から本格的に目指している点です。5つのカテゴリーを内包した「グローバル入学試験」は、貴学の意気込みを感じさせる入試制度改革です。特に、国際貢献活動を志す者のための入学試験、英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験、インターナショナル・バカロレア入学試験、グローバルキャリアを志す者のための入学試験、グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験、スーパーグローバルハイスクール教育連携校対象の公募推薦入学試験などは注目できます。また、国連難民高等弁務官事務所との協定による難民を対象とした推薦入学試験は、Mastery for Serviceを掲げる関学ならではの特筆すべき入試制度と云えます。

・ (3)教員組織の編成方針について

教員組織は、長期ビジョン・長期戦略を実現できる教員組織であること、大学および各学部が定めたDP・CP・APに合致していることを前提とし、国際性や性別、年齢構成に配慮して編成するという記載がされました。しかし、「配慮する」という表現では、どのような編成がなされるか、曖昧さが残ります。国際化を考えるならば外国の国籍を持つ教員の割合を〇〇％程度に増やすとか、男女共同参画社会の実現に向けて女性教員の割合を〇〇％程度にすると云った具体的なガイドラインを示す必要があると思います。また、専任教員は教授会の構成員となり、各教授会は教育活動及び研究活動に責任を持つことの追記がなされました。専任教員と非常勤教員の違いを明確にするための追記であると推察しますが、非常勤教員の構成割合比率の上限を示すことのほうが、教員組織の編成方針としては意味があると思います。ミッション・ステートメントを実現するために「教育者として」「研究者として」「組織の構成員として」「人として」の4つの観点から求める教育像が示されていますが、「人として」の観点は、教員の品格に重きを置くものであり、注目に値します。

・ (4)大学院の充実について

「大学院のあり方」から「大学院の充実」に表現が改められましたが、充実の方向性に関しては、世界的な研究拠点のため、大学院の充実を図り、若手研究者の育成の務めるという内容が示されているだけで、充実のための具体的方策は示されていません。一般に大学院の充実という場合、量的な拡充と質的な向上が考えられますが、どのようにして拡充を図るのか、教育課程としての質をどのようにして担保するのかを考える必要があります。しかし両者を同時に解決することは容易ではありません。定員充足に主眼を置けば質の低下に繋がりがかねず、世界的な研究拠点形成に力を注げば、肥大している研究科の数の見直しが必要であると思います。最も気になる点は、博士前期課程と博士後期課程の教育目標の違いが明確でないことです。中間学位である修士課程に相当する博士前期課程の教育目標は、研究者養成の後期課程とは異なるはずですが、まず、前期課程と後期課程のDPの違いを明確にすることが重要であり、それぞれの違いに応じた充実方策の構築を求めたいと思います。

・ (5)教育課程基本方針策定委員会について

教育課程基本方針策定委員会は、理念・目的・教育研究目標・方針等について検証した結果、見直しの必要性を指摘し、2018年以後に、学長室を中心に見直すとしています。全学的な視点から教育研究活動の見直しを行うことは重要ですが、「何が問題で」「どこが問題で」「なぜ問題であるのか」と云った点については、帳票からは伺うことはできません。大学院の充実のための方策や学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標の開発などが課題と考えられますが、どのような方向での見直しを検討しているのか、見直しの輪郭をより明確に示す必要があります。見直しの主体は記載されていますが、見直しの時期を明示し、その結果を改革・改善に繋げるための手順が構成員に分かるように、学長室など協力して、改革マップを作成すると共に、見直すべき課題ごとに、年次を追った作業手順のフローチャートを作成することを勧めたいと思います。

・ (6)アシスト目標について

各機構・センターは、大学の理念・目的を実現させるための全学的な組織として設置されたとはいえ、具体的な実務や事業を行うセンターと、そのセンターを統括し、教育・研究・社会貢献・学生支援のための条件整備や活動の推進を設置目的としている機構とは、やや性格は異なっています。最も分かりにくいのは、全学科目の開講を行うとされている教務機構です。実質的には機構内に置かれている共通教育センターと教務委員会がその任を担っていると考えられますが、同センターの権限が今ひとつ明確ではありません。実際の授業の提供を各学部に依存していることもあって、一部の授業を除くと、専ら授業提供学部間の調整機能を主業務としているように思われます。学士課程教育に占める教養教育の重要性を考えると、全学共通科目である教養教育の理念・目的・教育目標を明確に示し、理想的な教養教育のプログラムを開発し、計画・実施・評価を一元的に統括できる共通教育の中核センターとして機能することが期待されます。(A)

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞

～検証状況の確認～

- ・ 1年前に比べて各学部のAPが格段に整備されたことは評価できます。各学部のAPで述べられた「期待される意欲や態度等」を一般入試等でどう評価・判定して行かかが、平成33年度以降の入試で問われるようになります。「主体性評価」の代表校を務められる貴学のご対応に期待しています。
- ・ 「入試ごとのAP」の過半は、入試の種類とそれぞれの趣旨を説明するもので、APではなく、入試要項になっており、そもそも不要ではないかと考えます。指定校推薦入試、AO入試については、学部ごとに求める資質等が記載されており、APらしく見えますが、ここで求めるのは、各学部のAPで求める意欲や態度、能力に他ならない筈です。異なるものを求めるなら、各学部APの意味がありません。同じことを繰り返すなら、各学部のAPとは別に「入試ごとのAP」を設ける必要はないのではないのでしょうか。一般入試の現行の選考基準と各学部のAPとが整合性を欠くために、「入試ごとのAP」を定める必要があるように思われるのであれば、これは、平成33年度入試に向けて一般入試の選考基準の検討を行う中で解決されるべき問題であると考えます。一般入試用のAPを各学部APとは別に定めるのは、折角改善された各学部のAPの自己否定ではないのでしょうか。検討が望まれます。(B)
- ・ 2017年度は2015年度からの自己点検・評価の3年目ということで、DP、CP、APIについては、ほぼ骨格が固まってきていた印象がありましたが、少し見直す方針も出てきたようですので、その背景、理由についての説明が求められるように思います。
- ・ 具体的には、DPIについて、2017年10月に検証した結果、2018年以降に見直す方針となったように理解しましたが、その背景、理由を「判断根拠」に示す必要があると思います。
- ・ CPIについての記述をみると、同様に2018年以降に見直しに入る理由を「判断根拠」に示す必要があると思います。
- ・ APIについて各学部で微妙な変更があったようですが、変更理由が明示されておらず(A票変更点記述シート)、変更に関する正確なトレースができませんでした。学部の検証内容、変更の意図を説明する必要があると思います。
- ・ 博士課程前期課程、後期課程、専門職学位課程のAPIについては、2018年以降に見直しに入ると書かれておりますので、その理由を「判断根拠」に示す必要があると思います。
- ・ SGUを契機としたグローバル化に対応した施策が積極的に展開されており、提携大学数の拡大、海外への派遣学生数と受け入れ留学生数の双方が順調に伸びているなど、着実に成果として表れてきている点が評価されます。今後は量的拡大にとどまらず、質的な成果についてもモニタリングして次の活動に生かしていくことが重要になると考えられます。
- ・ 学習成果測定の指標の開発・分析が未着手の課題として指摘されています。関連する施策として、ポータルサイトの導入(2017年度仮運用、2019年度完成予定)果を明らかにするために、学修行動調査、卒業生調査の導入などが進み、成果を測定するためのアプローチも併せて検討すべきと考えられます。これらのデータを活用するための体制として、組織的な位置づけが明確になったIR担当部署を中心とした検討を進めていくことが期待されます。
- ・ 産学連携の強化、大型化については、昨年度から、政府でも重要な課題として問題提起されていますが、本学においても産学連携の実施プロジェクト数が順調に拡大していたり、分野横断的プロジェクトの実績が始まっている点は評価できます。一方で、について業務の効率化などが進展していることは研究推進社会連携機構の活動としては評価されますが、昨年度第三者評価で指摘されたように、研究支援体制の効率化にとどまらず、大学の研究の充実につながる「研究支援の充実」に関する方針を改めて整理する必要があると思います。研究の強化とそれに付随して大学院の充実も併せて、本格的な検討を進めることが期待されます。
- ・ 学生、教職員の利用するICT環境や図書館などのインフラの整備ですが、漸進的な改善が進んでいることは窺えるのですが、急速にデジタル化が進み教育・研究のあり方も影響を受ける中で、抜本的な検討も中長期では必要になると思います。それは、総合的なキャンパス環境のグランドデザインの検討なども関連づけながら、検討を進めていくことが期待されます。
- ・ 自己点検・評価の取り組みを通じて収集する定量データの各学部での活用状況について、肯定的な評価が8割に達するなど、学内の理解が高まっている点が評価できます。一方で2015年度からスタートした自己点検・評価が3年目に入り、行動計画によっては進捗が進んだものが散見されるようになってきています。行動計画を既に組み直している例も一部にはみられますが、そのままになっている事例も多く、進捗した行動計画のネクストステップを検討し新規の行動計画を追加する試みを進めることが求められます。(C)
- ・ 全体的にPDCAが適切に運用されていることがわかり、評価できる。(D)
- ・ 女共同参画推進の視点や、留学生の増加や性の多様化等、キャンパス構成員の多様性の進展に対応したダイバーシティの視点は、大学全体としての確固たる方針を示すことではじめて学内に浸透するというべきです。大学全体の方針を、自己点検・評価項目として新たな項目(A-18)を設けて示すか、少なくとも、教員組織の編成方針(A-8)や教育研究等環境の整備に関する方針(A-10)に、この点についての大学としての方針を明示ことが求められます。学内外の新たな変化に方針等の適切な変更対応がなされている点が評価できますが、引き続き適切な見直しを期待されます。(E)
- ・ いわゆる3つのポリシーについては学士課程のAP以外について、次年度以降に学長室を中心に見直すとのことですが、学位課程ごとに十分な検討がなされ、AP・CP・DPが一貫性のあるものとして策定されることが期待されます。またその際には、3つのポリシーを策定するにあたっての全学的な基本方針を策定し、その基本方針のもと、全学と各学部・研究科の3つのポリシーの整合性等にも配慮し、大学全体としても一貫性のあるものとして策定されることが期待されます。学部のAPのみ検証プロセスが異なります。3つのポリシーの連動性、一貫性を検証する際に、学部のAPも他のポリシーと合わせて検証する場合は必要ないのでしょうか。昨年度の第三者評価に対応して、教員組織の編成方針を見直したことは評価できます。(F)
- ・ 各学部のアドミッション・ポリシーの見直しが実施されており、評価できます。
- ・ 昨年の第三者評価の指摘を受けて、大学としての教員組織の編成方針が明示されたことは評価できます。(G)
- ・ 全体として適切性の検証が実施されており、見直すべきポイントや課題が認識されている点が評価できます。
- ・ 検証を続けることで、より良いものとなることが期待されます。教員組織の編成方針については、第三者評価者の指摘をふまえた変更がなされている点は評価できます。(H)

<理念、目的、教育研究目標、方針等>

～検証状況の確認～

- ・ 教育研究目標6「大学院の充実」の取組み進められると記述されていますが、取組みの中で、各研究科の各課程(博士課程前期・後期・専門職学位)の役割や方向性が十分に学内で議論・共有され、今後それらの検討結果がDP、CP、APの3ポリシーや大学院の学生支援の方針にも反映されて、大学の姿勢が学生や教職員等へと周知されることが期待されます。
- ・ A-7「学生支援に関する方針」 修学支援【障がいのある学生に対する修学支援】について、学内の新たな「障がい学生支援に関する基本方針」策定に伴い変更を加えられており、適切性を検証する体制が機能していることは大変評価できます。
気がついた点としては、変更後に記載された「障がい学生支援に関する基本方針」の中には「4. 決定過程」、「7. 支援体制」、「8. 不服申立」、「12. 改廃」などの項目が並んでいますが、事務的な手続き内容が方針として相応しいのか、という点がやや気になります。
- ・ 「内部質保証に関する方針」 方針の記述は自己点検・評価に関する内容が中心ですが、適切性の検証状況欄に記述があるとおり、「内部質保証」の概念について本学での捉え方を整理して今後方針についても検討を進めることが望まれます。(I)
- ・ 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP) 随時見直され、内容も精査されていることは評価できます。学部間で統一感がないのは、大学全体の内部質保証の観点からも好ましくありません。伝えるべき要素を簡潔に、そしてある程度の統一感をもって示すことが期待されます。一方で、研究科のAPは抽象的な内容に留まっています。「大学院の充実」で定員充足を目標に掲げていることから、今後の取り組みの中で具体的な内容について検討が進められることを期待します。(J)
- ・ 「A-1」「A-2」の確認シート(3ページ)の中で、「いいえ」が散見されますので、改善に向けて取り組んでください。「A-2(DP(学士課程))」の検証の結果、2018年度以降に見直す予定とのことなので、適切に見直しをすすめられるよう期待します。(K)